

福岡・前原・那珂圏域 流域治水プロジェクト 【取り組みの紹介】(1/2)

No.	機関名	種別	分類	対策
1	福岡市	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	河床掘削・拡幅、護岸整備等（周船寺川、水崎川）
2				河床掘削・拡幅、護岸整備等（若久川）
3				護岸の根継、河床防護 等
4				河川改修（地下河川）（準用河川香椎川）
5			雨水貯留浸透機能の向上	ため池の治水利用
6			ため池の有効活用	
7			戦略的な維持管理	排水機場の長寿命化
8			内水氾濫対策	公共下水道（雨水）の整備
9			被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報の共有
10	筑紫野市	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	雨水貯留浸透機能の向上	雨水貯留浸透施設に対する助成制度
11		被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報の共有 防災意識の啓発	各種ハザードマップの作成・公表防災教育、出前講座の実施及び水防災学習の支援
12	春日市	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	雨水貯留浸透機能の向上	開発に伴う雨水流出抑制に係る規制、指導
13	大野城市		内水氾濫対策	雨水貯留浸透施設の整備
14			雨水貯留浸透機能の向上	ため池の有効活用
15	太宰府市		内水氾濫対策	農業水利施設(水路)の整備ため池の有効活用
16	雨水貯留浸透機能の向上			
17	古賀市		雨水貯留浸透機能の向上	透水性舗装の実施
18		被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災意識の啓発 関係機関の連携・協力体制の確保、人材育成	マイハザードマップ・マイタイムラインの作成及び自主防災組織の設立 関係機関が連携した水防訓練、連絡体制、情報共有の強化
19	糸島市	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報の共有	各種浸水想定区域図（または過去の浸水実績範囲）の作成・公表
20	那珂川市	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	河川の浚渫
21		被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	関係機関の連携・協力体制の確保、人材育成	自主防災組織・防災リーダーの育成
22	宇美町	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	雨水貯留浸透機能の向上	開発に伴う雨水流出抑制に係る規制、指導
23	篠栗町		森林整備・治山対策	治山対策
24	志免町		雨水貯留浸透機能の向上	ため池の有効活用
25			雨水貯留浸透機能の向上	雨水流出抑制施設設置の指導
26	新宮町		被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報の共有

福岡・前原・那珂圏域 流域治水プロジェクト 【取り組みの紹介】(2/2)

No.	機関名	種別	分類	対策
27	須恵町	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	雨水貯留浸透機能の向上	開発に伴う雨水流出抑制に係る規制、指導
28		被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報の共有	各種ハザードマップの作成・公表
29	久山町	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	雨水貯留浸透機能の向上	ため池の補強・有効活用
30			内水氾濫対策	排水施設の整備（長寿園地区）
31			内水氾濫対策	排水施設の整備（鍛冶地区）
32	粕屋町	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	住民等への防災情報の周知	様々な防災情報提供ツールや情報提供媒体を活用した防災情報伝達の強化・多重化
33			防災意識の啓発	自主防災組織における防災訓練
34	福岡市、筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、古賀市、糸島市、那珂川市、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町、粕屋町	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報の共有	各種ハザードマップの作成・公表
35	福岡県・施設管理者	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	既存ダムの洪水調節機能の強化	利水ダム等における事前放流の運用
36	福岡県		内水氾濫対策	農業水利施設の整備・有効活用ため池の補強・有効活用水田の貯留機能向上
37			雨水貯留浸透機能の向上	
38			洪水氾濫対策	河道掘削・拡幅、護岸整備等（多々良川）
39				河道掘削・拡幅、護岸整備等（瑞梅寺川）
40			砂防施設等整備	砂防施設の整備、急傾斜地崩壊防止施設の整備、地すべり防止施設の整備
41	福岡森林管理署、森林整備センター、福岡県	森林整備、治山対策	森林整備事業の実施、水源林造成事業の実施、治山施設の設置	
42	福岡管区气象台	防災意識の啓発	自治体職員向け気象防災ワークショップの実施	
43	福岡県	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	住民等への防災情報の周知	様々な防災情報提供ツールや情報提供媒体を活用した防災情報伝達の強化・多重化
44			防災意識の啓発	防災教育、出前講座の実施及び水防災学習の支援
45			リアルタイム防災情報の共有	水位計・量水標・河川監視カメラの設置
46			タイムラインの作成、ホットラインの構築	関係機関のホットラインの構築
47			水害リスク情報の共有	各種浸水想定区域図（または過去の浸水実績範囲）の作成・公表
48		被害の軽減	個別避難計画作成促進事業	

洪水氾濫対策

河道掘削・拡幅、護岸整備等(周船寺川)

(福岡市の取り組み)

【九州大学移転に伴う西部地域のまちづくり】

➢ 九州大学移転に伴い、伊都キャンパス周辺のまちづくりの基盤整備として周船寺川の改修を推進します。

河川区域

位置図・写真



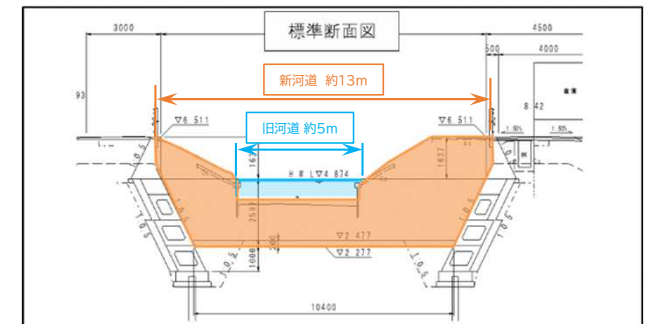
取り組み内容の説明

【周船寺川の整備事例】

①河道の拡幅・護岸改修



②周船寺橋架替橋長10.5m⇒20.5m



洪水氾濫対策

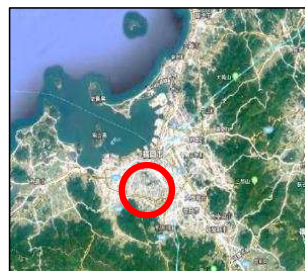
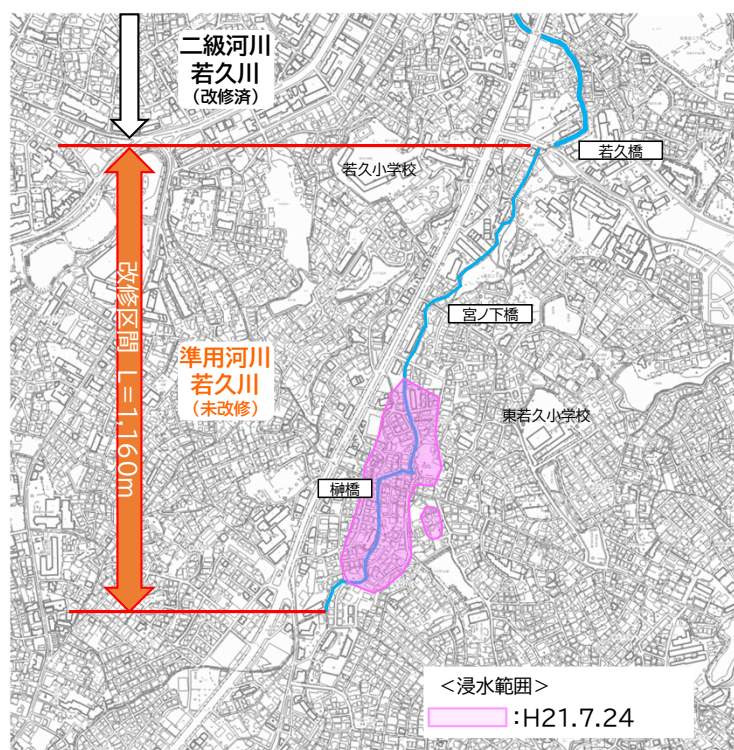
河道掘削・拡幅、護岸整備等(若久川)

(福岡市の取り組み)

- 若久川流域は、近年、都市計画道路や福岡都市高速道路環状線が開通するなど、都市化の進展が著しい地域となっています。
- 準用河川若久川では、平成11年6月豪雨や、平成21年7月中国・九州北部豪雨で床上・床下浸水被害が発生しています。
- そこで、流下能力の向上と市街化進展による雨水流出増加に対応するため、令和元年度から準用区間の改修事業に取り組んでいます。(二級区間は改修済み)

河川区域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明

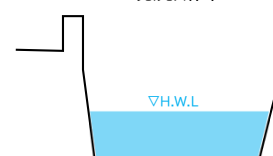
改修方式:河道掘削
改修延長:1,160m

<現況>

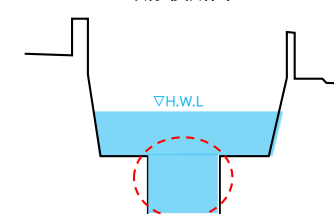


整備イメージ

<現況断面>



<改修後断面>



■改修後の断面について
現況河道はコンクリート三面張りの掘り込み河道となり、橋梁が多数架かっていることや家屋が密集していることから、河床を掘り下げる改修方法を予定しています。

洪水氾濫対策

護岸の根継、河床防護 等

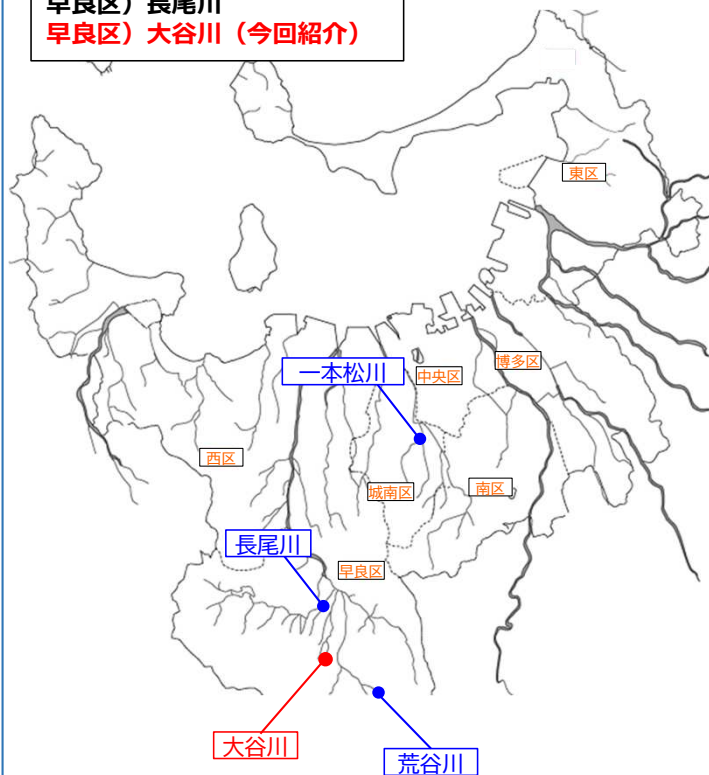
(福岡市の取り組み)

- ▶ 局地的豪雨に伴い生じる急激な水位の上昇や流量の増加による被害の軽減を図るため、市が管理する中小河川において護岸の根継や河床の防護などの対策を行っています。
- ▶ 直近5年(R2年度からR6年度末時点)では、市内4河川で局所的な改良工事を実施しています。
・【事業河川】 普通河川 一本松川・荒谷川・長尾川・大谷川

河川区域

位置図・写真

- ◆事業河川
城南区) 一本松川
早良区) 荒谷川
早良区) 長尾川
早良区) 大谷川 (今回紹介)



普通河川 大谷川
(福岡市早良区)

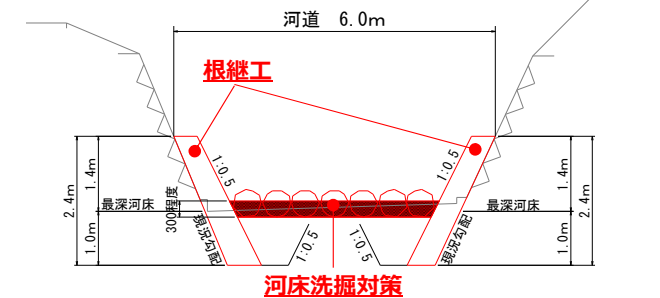


取り組み内容の説明(大谷川)

【河床洗掘対策】
自然(生物)に配慮し、再度、河床洗掘防止を図る仕上げとしている



標準断面図



洪水氾濫対策

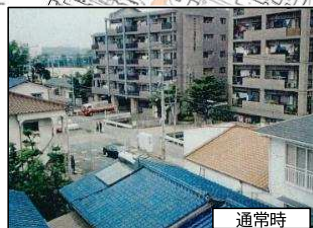
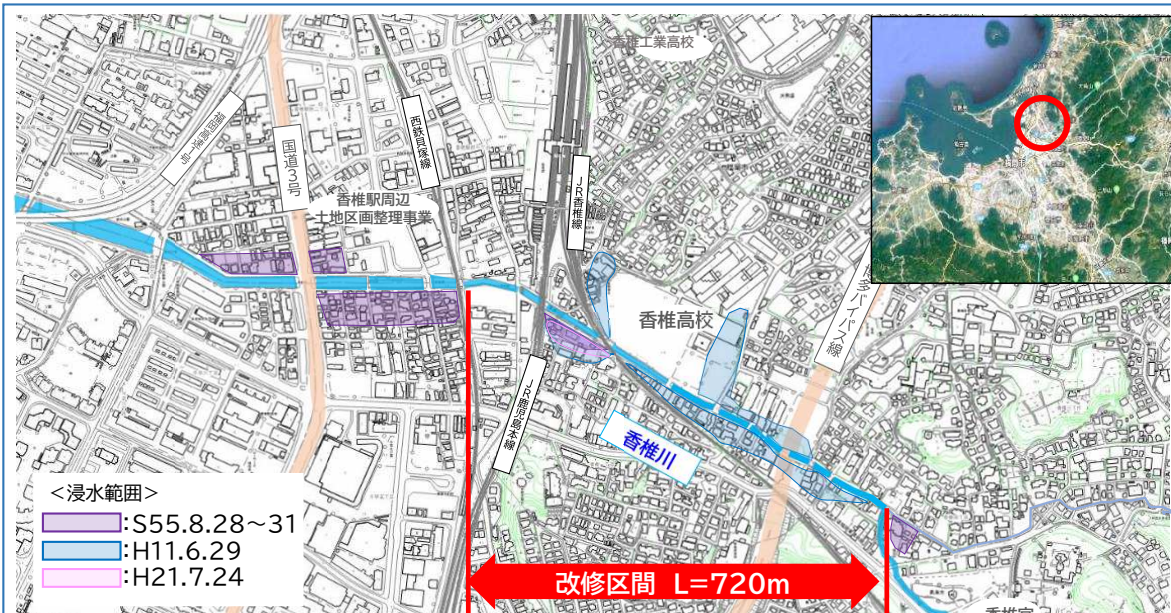
河川改修(地下河川) (準用河川香椎川)

(福岡市の取り組み)

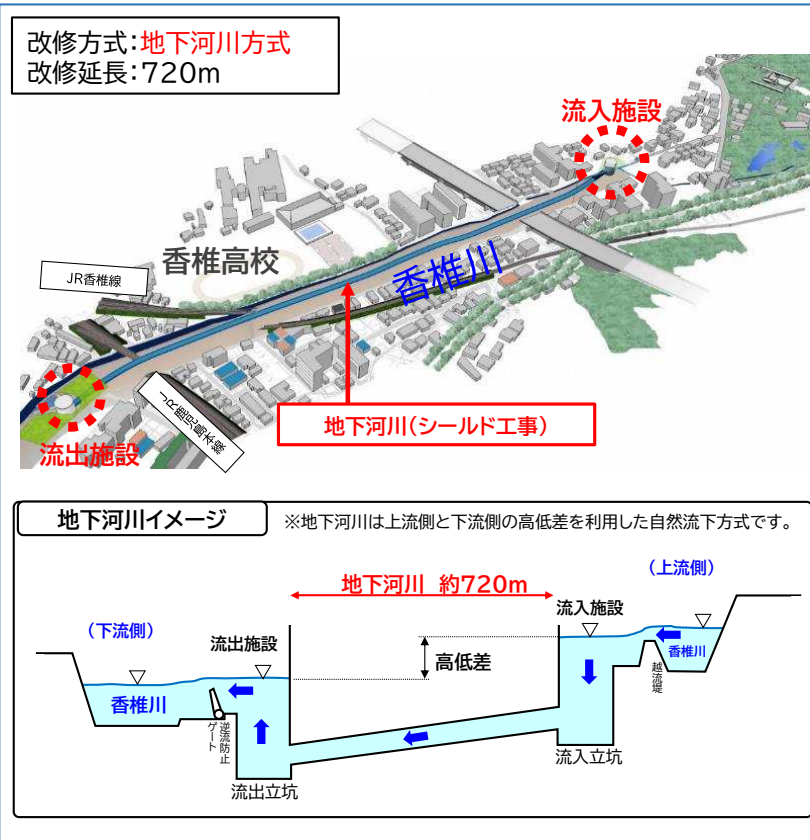
- 香椎川が流れる香椎地区は福岡市の東部副都心であり、商業の中心地として機能しています。
- 準用河川香椎川では、平成11年6月豪雨や、平成21年7月中国・九州北部豪雨で床上・床下浸水被害が発生しています。
- そこで、流下能力の向上と市街化進展による雨水流出増加に対応するため、平成26年度から河川の改修事業に取り組んでいます。
- 香椎川沿川は鉄道の横断、戸建て住宅やマンションが隣接していることから、地下河川方式を採用した改修を実施しています。

河川区域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明



雨水貯留浸透機能の向上

ため池の治水利用

(福岡市の取り組み)

- 近年、市街化の進展や高齢化に伴い、灌漑用途が廃止される農業用ため池が増加しています。
- そこで、灌漑用途のなくなった農業用ため池については、下流河川に対する洪水負担の軽減を図ることを目的とする洪水調節機能を持った池(治水池)に整備します。

集水域

■位置図・写真

◆整備対象池(予定)

- 南区)源蔵池
- 城南区)道手池
- 城南区)五ヶ村池
- 城南区)葭池

城南区)道手池

南区)源蔵池

■取り組み内容の説明

池名	水系	整備後洪水調節容量※
源蔵池	樋井川	81,000m ³
道手池	樋井川	3,211m ³
五ヶ村池	樋井川	22,400m ³

※整備後洪水調節容量については、現時点での計画値となり、今後の詳細な設計等で変更となる可能性があります。

整備イメージ

オフィスの改良

洪水吐の改良

洪水吐改良

堤体改良

オリフィス(放流孔)新設

▼豪雨時の満杯水位

▼常時水位

雨水貯留浸透機能の向上

ため池の有効活用

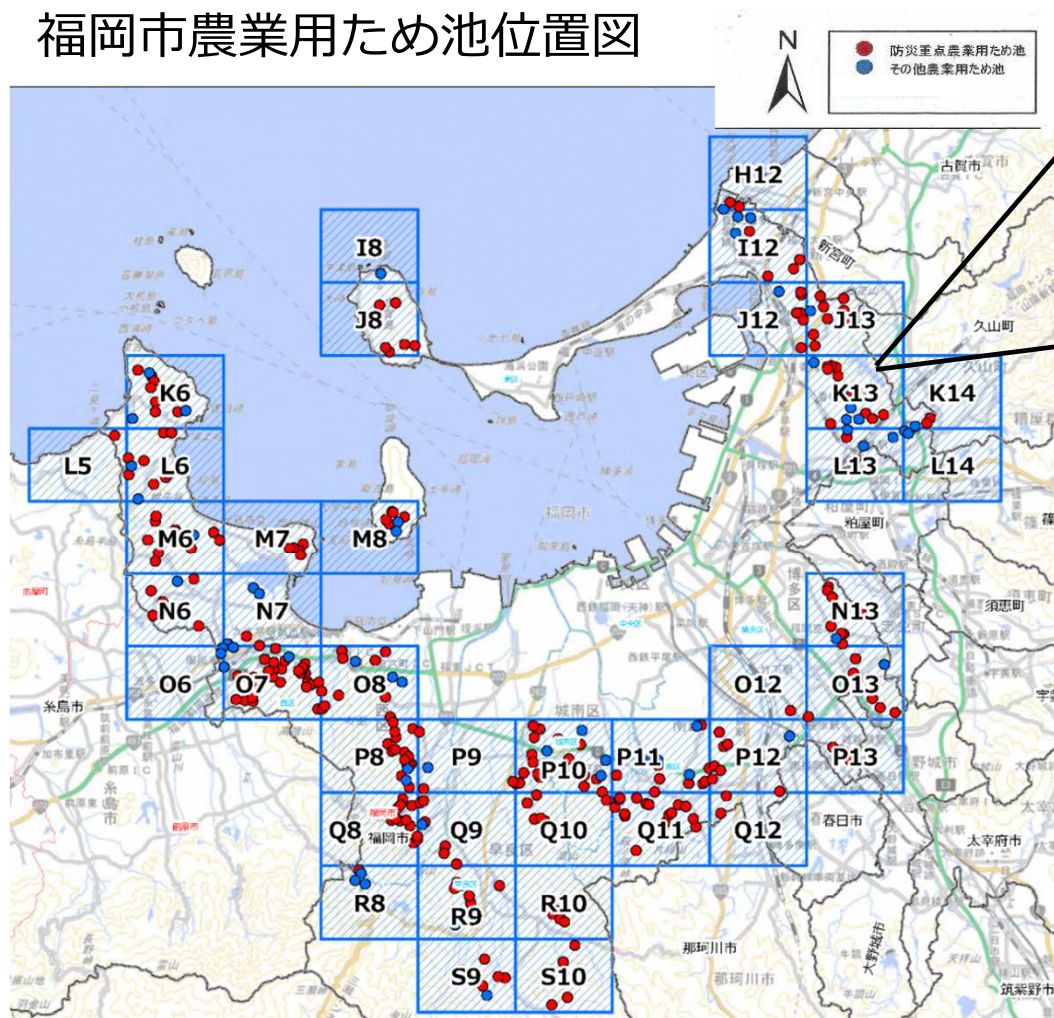
(福岡市の取り組み)

- 農業用ため池の必要最低限の水位管理(低水位管理)や大雨時の事前放流を水利組合に依頼し、雨水の流出抑制に取り組んでいます。

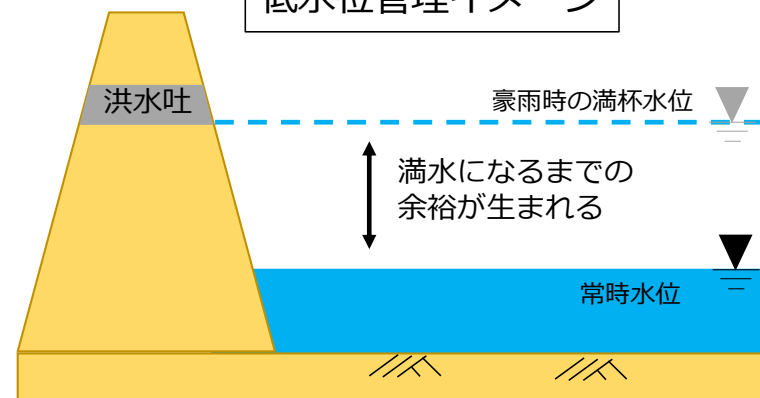
集水域

位置図・取組み内容の説明

福岡市農業用ため池位置図



低水位管理イメージ



戦略的な維持管理

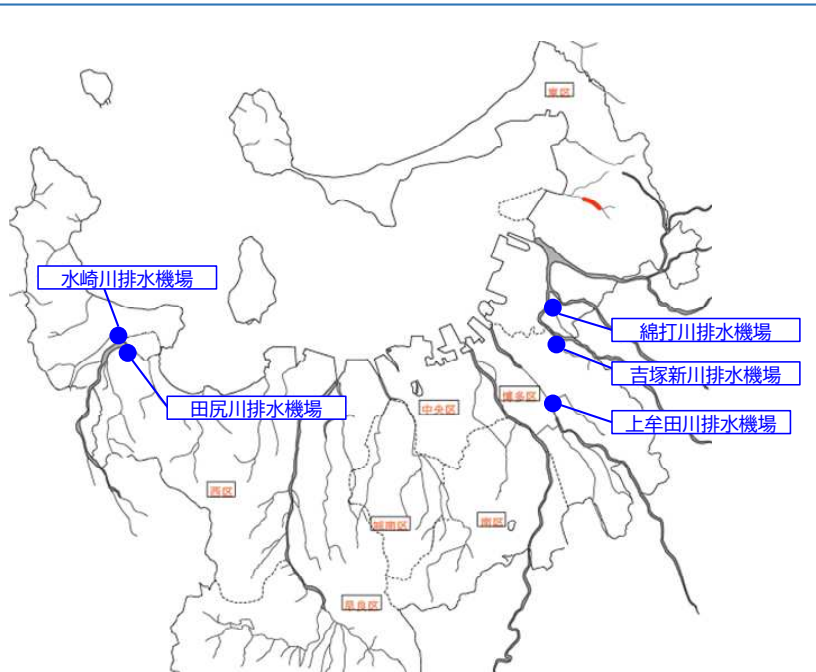
排水機場の長寿命化

(福岡市の取り組み)

- 市内の排水機場については、供用開始後35年以上経過しているものもあり、施設の老朽化や更新費用の確保が課題となっています。
- 排水機場は、洪水時に確実に排水設備を稼働させる必要があることから、計画的に施設の更新・修繕を行い、突発的な故障を未然に防いでいます。

氾濫域

位置図・写真



◆対象施設

- 東区) 綿打川排水機場
- 博多区) 吉塚新川排水機場
- 博多区) 上牟田川排水機場
- 西区) 田尻川排水機場
- 西区) 水崎川排水機場



除塵機劣化状況

取り組み内容の説明

<本市の主な取組み>

1. 福岡市河川施設アセットマネジメント実行計画(個別施設計画)の策定
2. 排水機場毎の長寿命化計画の策定
3. 上記計画に基づく、更新・修繕・点検の実施



東区)綿打川排水機場



博多区)吉塚新川排水機場

主ポンプ・主原動機

整備事例

<吉塚新川排水機場>
ゲート開閉機器の更新



更新前



更新後

内水氾濫対策

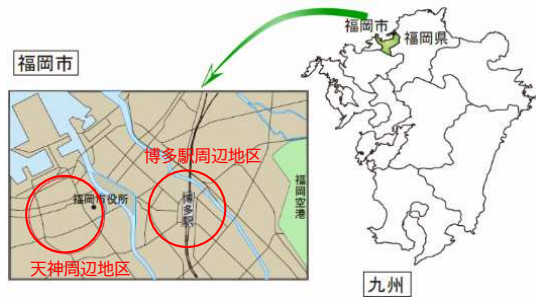
公共下水道(雨水)の整備

(福岡市の取り組み)

- ▶ 平成11年6月などの浸水被害を受けて、「雨水整備レインボープラン博多(H16年策定)」、「雨水整備レインボープラン天神(H21年策定)」に基づき、流下型の施設整備に加え、雨水流出抑制施設の導入を進めています。
※博多についてはH24年に主要な施設が概成し、天神についてはH31年より第2期事業に着手(H31～R11)

氾濫域

位置図・写真



博多駅の地下街へ流れ込む雨水(H15)



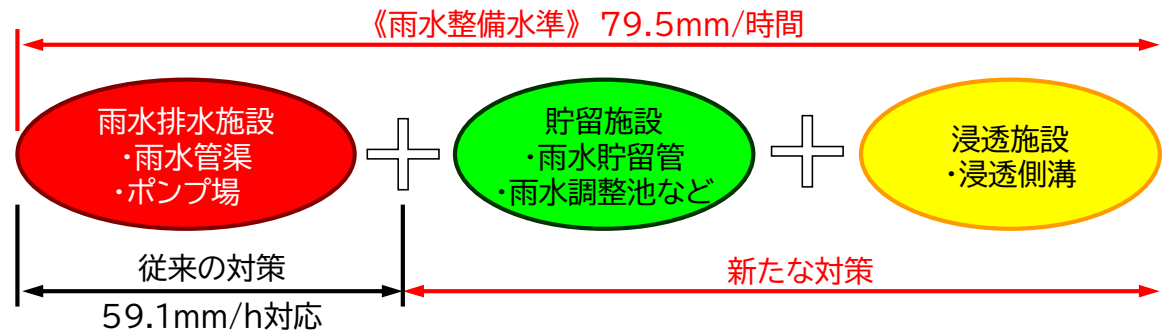
天神周辺地区の道路冠水(H11)

取り組み内容の説明

●雨水整備水準

〔時間雨量〕 59.1mm → 79.5mm

雨水整備水準を時間雨量59.1mm(10年確率)から平成11年6月29日の降雨である時間雨量79.5mmに引き上げ



〈雨水排水施設〉

雨水管渠やポンプ場の整備に取り組んでいます。



中部2号幹線最下流部

〈貯留施設〉

山王公園等を活用して雨水を約60,000m³貯留

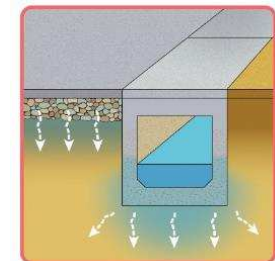


山王2号調整池 約15,000m³

山王公園の地下に雨水貯留施設を設置

〈浸透施設〉

浸透側溝を整備することにより、浸水対策と合流式下水道の改善に総合的に取り組んでいます。



水害リスク情報の共有

内水浸水想定区域図の公表、水位周知下水道の運用等

(福岡市の取り組み)

博多駅周辺および天神地区は、これまでハード整備による雨水排除能力の向上に取り組んできましたが、さらに、想定最大規模降雨(時間雨量153mm)においても、いのちを守り、社会経済被害を最小化することを目的に、水防法に基づき全国で初めて水位周知下水道を指定し、内水浸水想定区域図を作成しました。

氾濫域

位置図・写真



博多駅の地下街へ流れ込む雨水(H11)



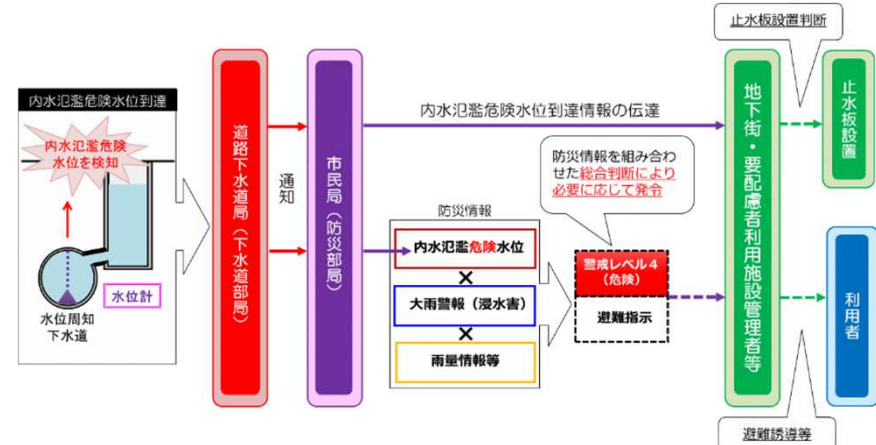
地下街管理者による止水板設置(イメージ)

取り組み内容の説明

〈水位周知下水道〉

大雨時に内水氾濫の浸水リスクが高まっている状況をいち早く市民や事業者にお知らせするため、令和2年6月から下水道の水位情報の提供を開始しました。

この情報をもとに地下街管理者は避難誘導や止水板を設置するなど、官民が連携して地下街等の安全の向上に取り組んでいます。



水位到達情報伝達のイメージ(発災時)

〈内水浸水想定区域図〉

水位周知下水道の指定と併せて、内水浸水想定区域を指定・公表しています。また、内水浸水想定区域や浸水深の情報について周知し、浸水時の避難や日頃からの備えに活用していただくことを目的として、内水ハザードマップを作成しています。

雨水貯留浸透機能の向上

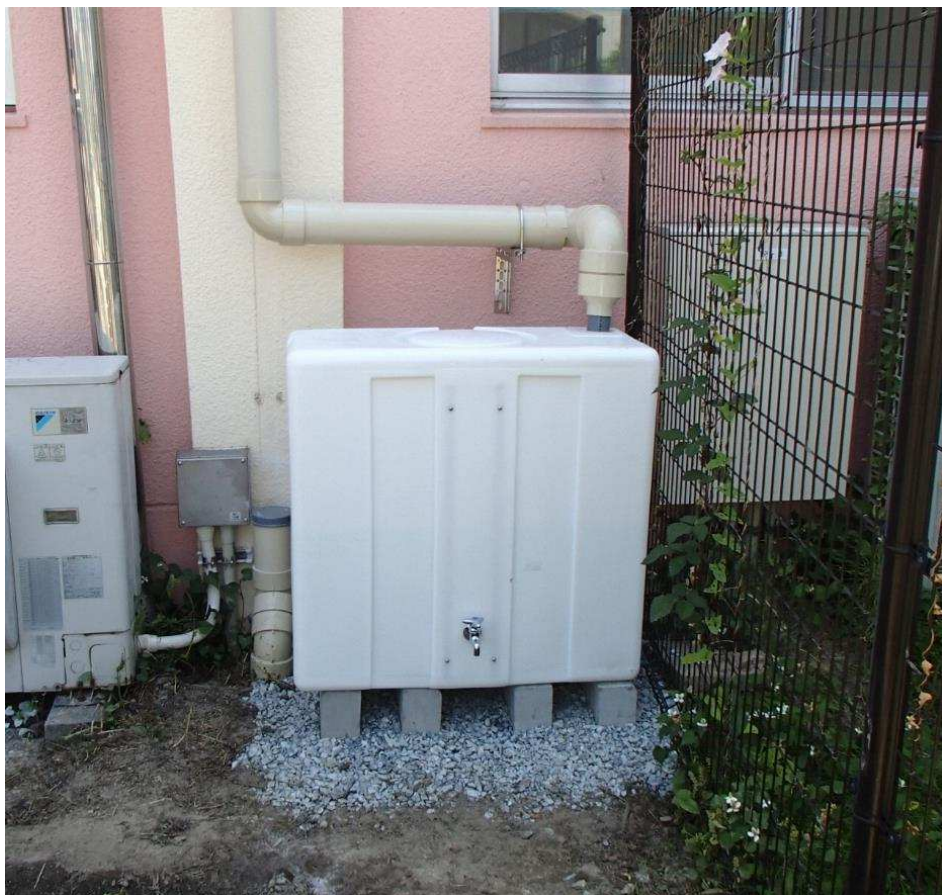
雨水貯留浸透施設に対する助成制度

(筑紫野市の取り組み)

➤ 近年の局地的な集中豪雨による浸水被害の軽減対策の一環として、雨水の流出抑制および有効利用を図るため、雨水貯留タンクを設置する費用を助成しています。

集水域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明

浸水被害の軽減に取り組みましょう！

雨水貯留タンクの設置費用を補助します

近年の局地的な集中豪雨により、市街地で浸水被害が発生しています。そのため、筑紫野市では浸水被害の軽減対策の一環として、雨水の流出抑制および有効利用を図るため、雨水貯留タンクを設置しようとする方を対象に補助金を交付します。

- 補助の対象となる雨水貯留タンク
 - ・雨水を貯留するために作られ、一般に販売されている既製品。
 - ・直接、建物の雨どいから接続し、耐久性のあるもの。
 - ・蓄付きで、雨水以外のものを流入させないもの。
- 補助の対象者
 - ・筑紫野市内で、雨水貯留タンクを設置する建物の所有者または使用者。
※借家の場合は、所有者の同意が必要です。
 - ・市税、下水道使用料および受益者負担金の滞納をしていないこと。
- 補助金の額
 - ・雨水貯留タンク購入価格の1/2に相当する額(千円未満切り捨て)で、限度額は3万円。
 - ・購入価格は、タンク本体価格と附属品の価格の合計額とし、消費税を含みます。
ただし、タンクの設置費用・配送費は含みません。
- 申請に必要なもの
 - ①補助金交付申請書 ②付近見取り図 ③タンクの設置予定箇所が分かる図面と写真
 - ④購入予定価格が分かる見積書等の書類
 - ⑤市税の滞納のない証明書(取納記録窓口で交付を受けて下さい)
 - ⑥借家の場合、建物所有者の同意書



水害リスク情報の共有
防災意識の啓発

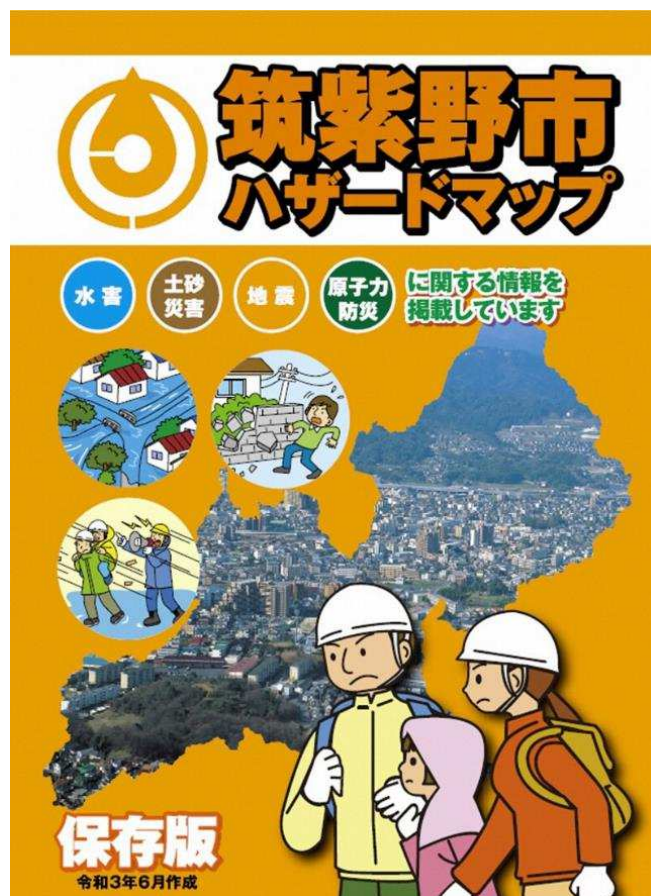
各種ハザードマップの作成・公表
防災教育、出前講座の実施及び水防災学習の支援

(筑紫野市の取り組み)

- 水防法の改正に伴い、洪水浸水想定区域を「想定しうる最大規模の降雨による区域(L2)」に拡大したハザードマップを作成し、令和3年8月に全戸配布しました。
- 新しく作成したハザードマップ等を用いながら、地域で防災出前講座を実施し、住民に対して啓発活動を実施しています。

氾濫域

■取り組み内容の説明



ハザードマップの情報を活用しながら、洪水浸水想定区域の説明や確認、避難行動や防災気象情報についての説明を行い、身の回りの災害危険箇所や避難所、避難経路を確認し災害時に慌てることなく落ち着いて行動できるよう啓発活動を行っている。

雨水貯留浸透機能の向上

開発に伴う雨水流出抑制に係る規制、指導

(春日市の取り組み)

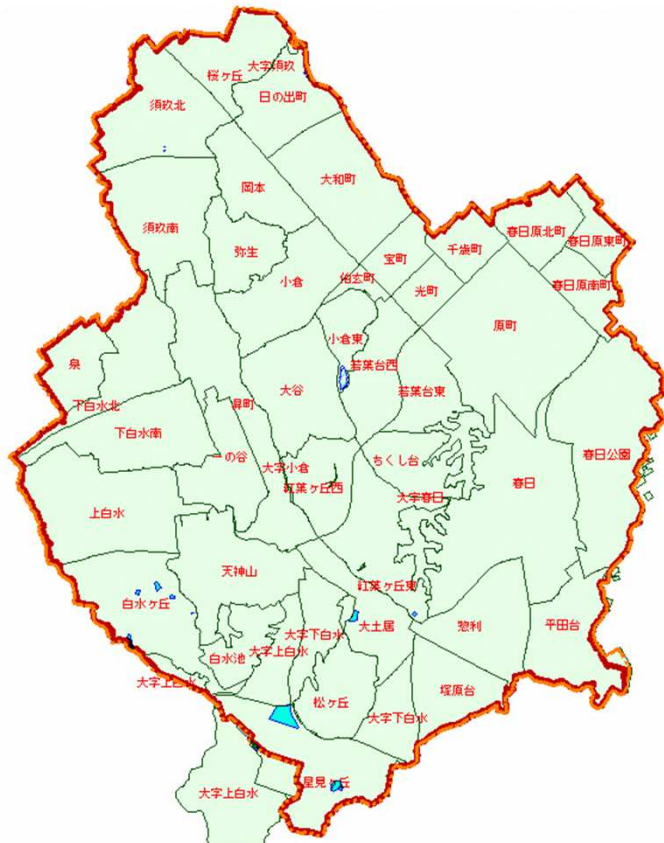
➤ 開発行為等整備要綱に伴う雨水流出抑制を行います。(春日市内)

- 有孔管の設置
- 単粒砕石による埋戻

集水域

■位置図・写真

■市内全域の開発行為に対して



■取り組み内容の説明

■【例】



内水氾濫対策

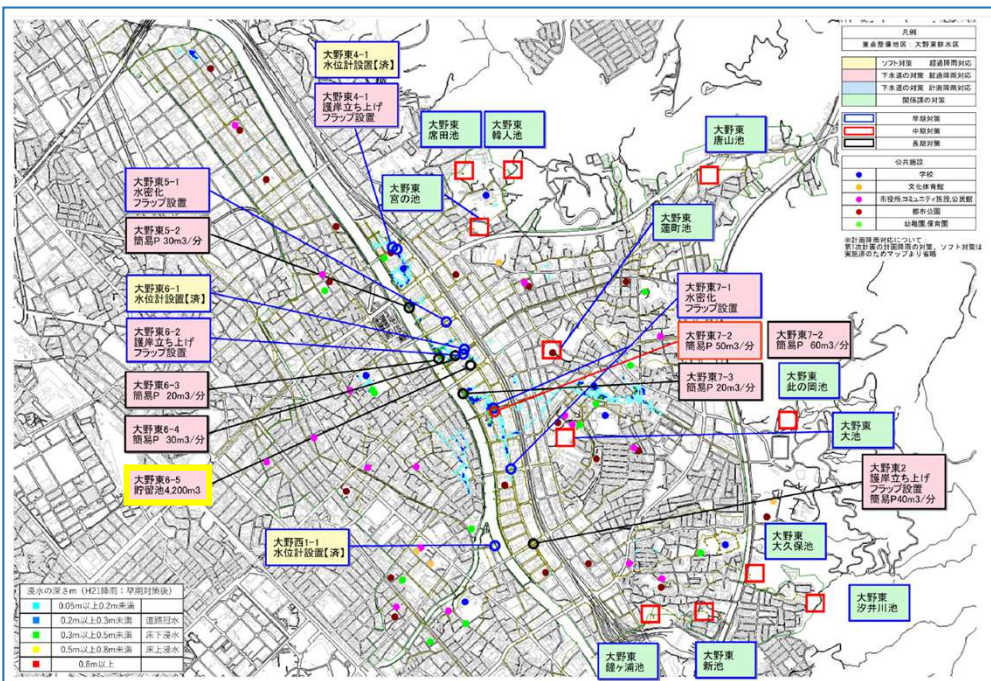
雨水貯留浸透施設の整備

(大野城市の取り組み)

➤ 雨水管理総合計画に基づき、大野東排水区において、既往最大降雨に対する床上・床下浸水解消のため、雨水貯留施設などを整備します。

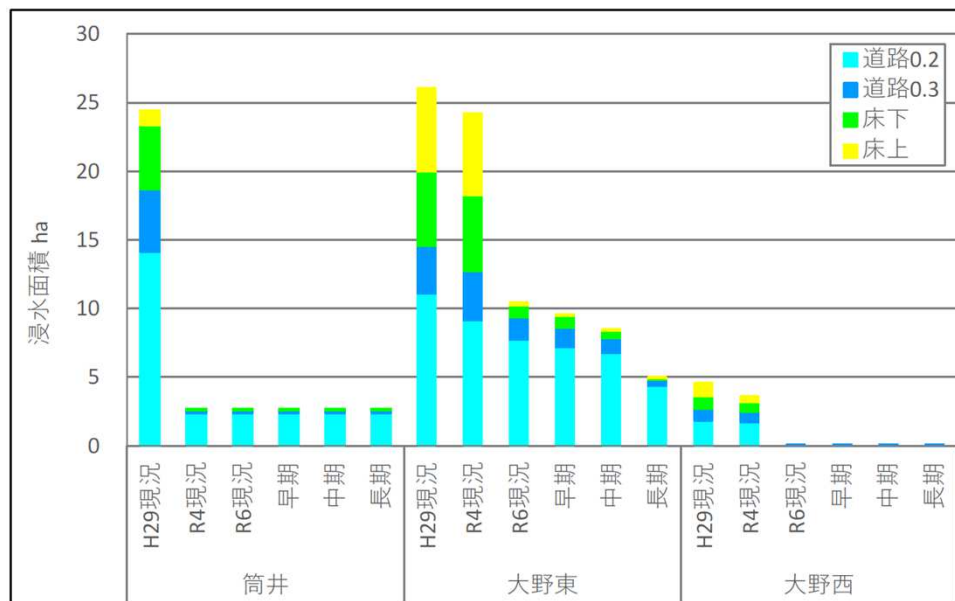
集水域

位置図・写真



取り組み内容の説明

	照査降雨 L1'	主な対策
早期対策 R6～R10	床上・床下浸水の軽減	護岸立上げ+フラップ 水路改修
中期対策 R11～R15 (浸水深 0.5m 未満)	床上浸水の解消	床上浸水対策 (簡易ポンプ)
長期対策 R16～R25 (浸水深 0.2m 未満)	床下浸水の解消 道路冠水の達成	床下浸水対策 貯留池 簡易ポンプ)



 雨水貯留施設整備予定箇所 (1箇所)
※ 上図の整備内容については、変更となる可能性があります。

雨水貯留浸透機能の向上

ため池の有効活用

(大野城市の取り組み)

- ▶ 市内ため池について、大雨が予想される場合に水利組合と連携し、事前にため池の水位を下げ、雨水の流出抑制を図っています。

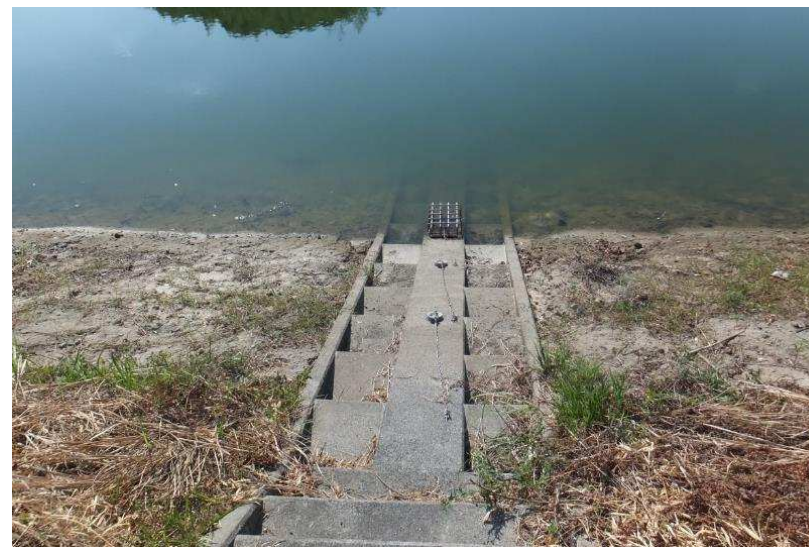
集水域

■位置図・写真

大野城市日の浦池の低水位運用状況



■取り組み内容の説明



○満水位から斜樋栓を1～2本開けて水位を下げることで、大雨時に雨水を一時貯留し、洪水調整の役割を果たしている。

○ため池の水を管理する水利組合に定例会議(年3回)を行う毎に、また、大雨洪水警報発令時にも必要に応じ連絡を行う事で水位低下運用(事前放流)を実施している。

内水氾濫対策
雨水貯留浸透機能の向上

農業水利施設(水路)の整備
ため池の有効活用

(太宰府市の取り組み)

- 老朽化した農業用水路について、計画的に修繕又は更新を行います。
- 老朽化したため池(附带設備含む)について、耐震診断や劣化状況調査等を行い、計画的に修繕又は改修を行います。
- 灌漑用途廃止のため池について、水位を低下させ雨水の調整池としての機能を持たせます。

氾濫域

集水域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明

・素掘り水路を更新し、通水機能の維持、日常管理の簡素化を図る。



・ため池の耐震診断や劣化状況調査を行い、決壊の防止、貯水機能の維持を図る。



雨水貯留浸透機能の向上

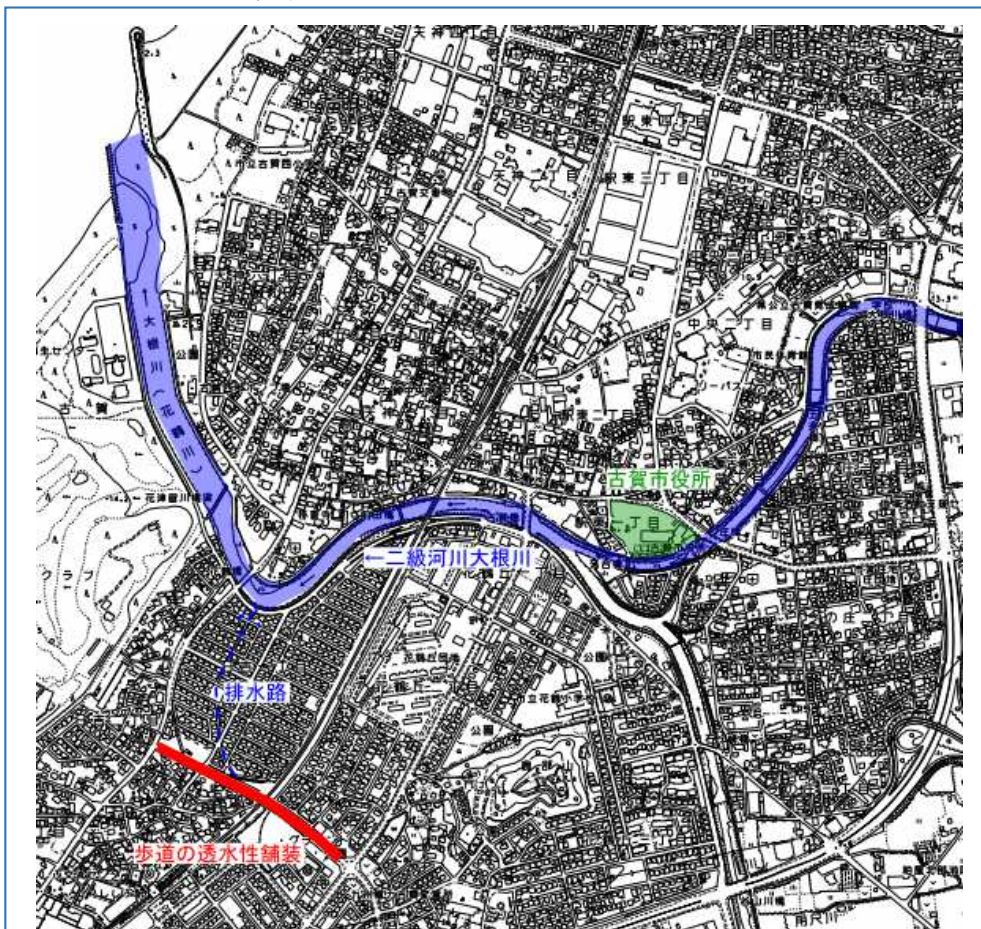
透水性舗装の実施

(古賀市の取り組み)

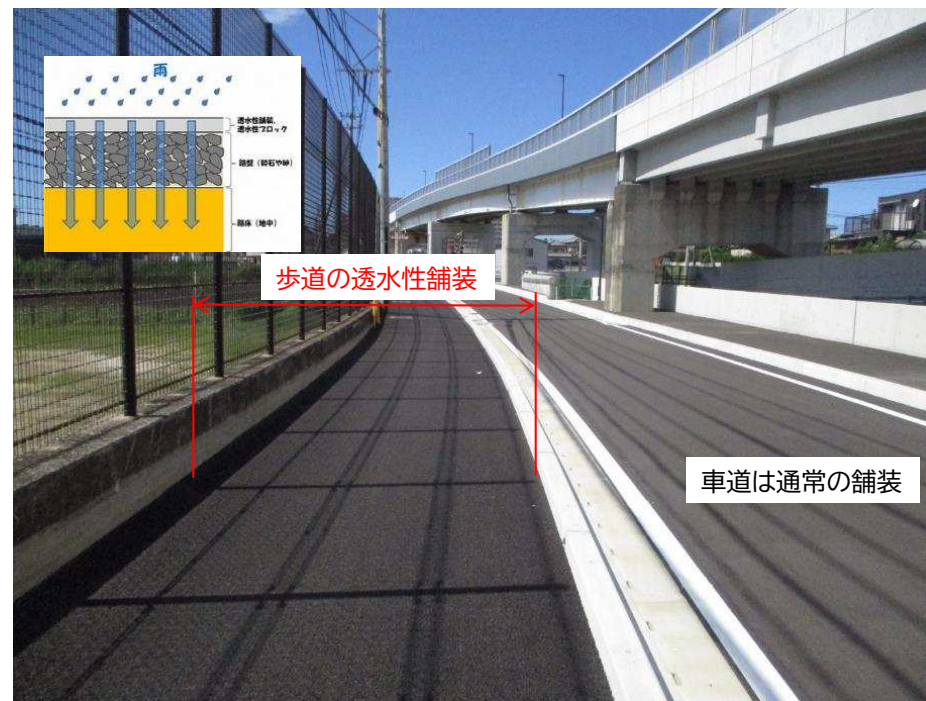
➤ 道路整備において歩道を透水性舗装とすることで、河川への雨水流出量を抑制します。

集水域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明



通常の舗装は雨水を浸透させない構造になっているのに対し、透水性舗装は地中に雨水を浸透させます。雨水流出抑制だけでなく、歩行者への水はね防止効果や、地下水の枯渇化防止、地中微生物の涵養効果があります。

防災意識の啓発

マイハザードマップ・マイタイムラインの作成及び自主防災組織の設立

(古賀市の取り組み)

- マイタイムラインは、住民一人ひとりが、災害に関する知識と心構えを共有し、事前に作成する防災行動計画です。
- 本市では、台風や大雨が接近しているとき、余裕をもって安全に避難するために、市民一人一人がとる防災行動を時系列でまとめる行動計画を作成できるよう、令和4年3月に作成した「古賀市総合防災マップ」に古賀市版マイ・タイムラインを添付し、全戸に配布しました。

氾濫域

位置図・写真



取り組み内容の説明



令和7年6月に作成した「古賀市総合防災マップ」に古賀市版マイ・タイムラインを添付し、全戸に配布しました。

関係機関の連携・協力体制の確保、人材育成

関係機関が連携した水防訓練、連絡体制、情報共有の強化

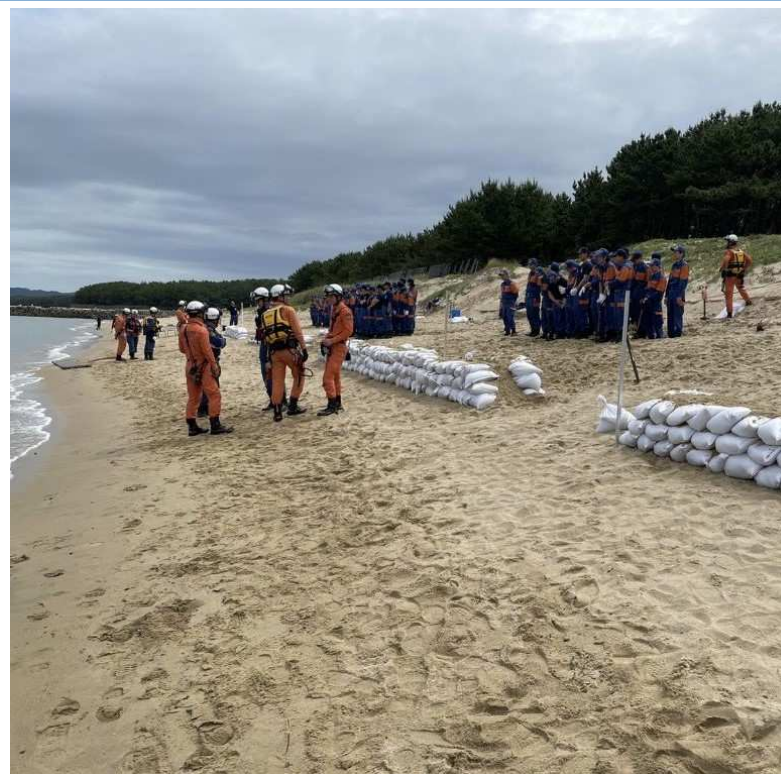
(古賀市の取り組み)

- 梅雨及び台風シーズンによる水災害多発時期を迎えるにあたり、水災害活動を安全確実に実行できるよう水災害に対する知識技術を習得するとともに、水災害活動時における関係機関の円滑な連携を図るために訓練を実施。
- 訓練参加者:古賀市消防団、粕屋北部消防署

■位置図・写真



■取り組み内容の説明



- 越水に対する工法
海岸線を河川とし、河川に越水の恐れが発生したものと想定し、4班に分けて天端に約10メートルの3段積み土のう工法を実施。

水害リスク情報の共有

各種浸水想定区域図(または過去の浸水実績範囲)の作成・公表

(糸島市の取り組み)

- 市内の雨水計画区域(市街化区域周辺)における内水地域において、「雨水出水(内水)浸水想定区域図」を作成します。浸水想定区域図は、自然災害等により河川が満水となり内水が放流できない場合に想定される浸水範囲・浸水深を色分け表示したものであり、すでに公表している「防災ハザードマップ(令和2年3月)」とあわせて、浸水想定区域図をもとに市民への情報提供等に活用します。

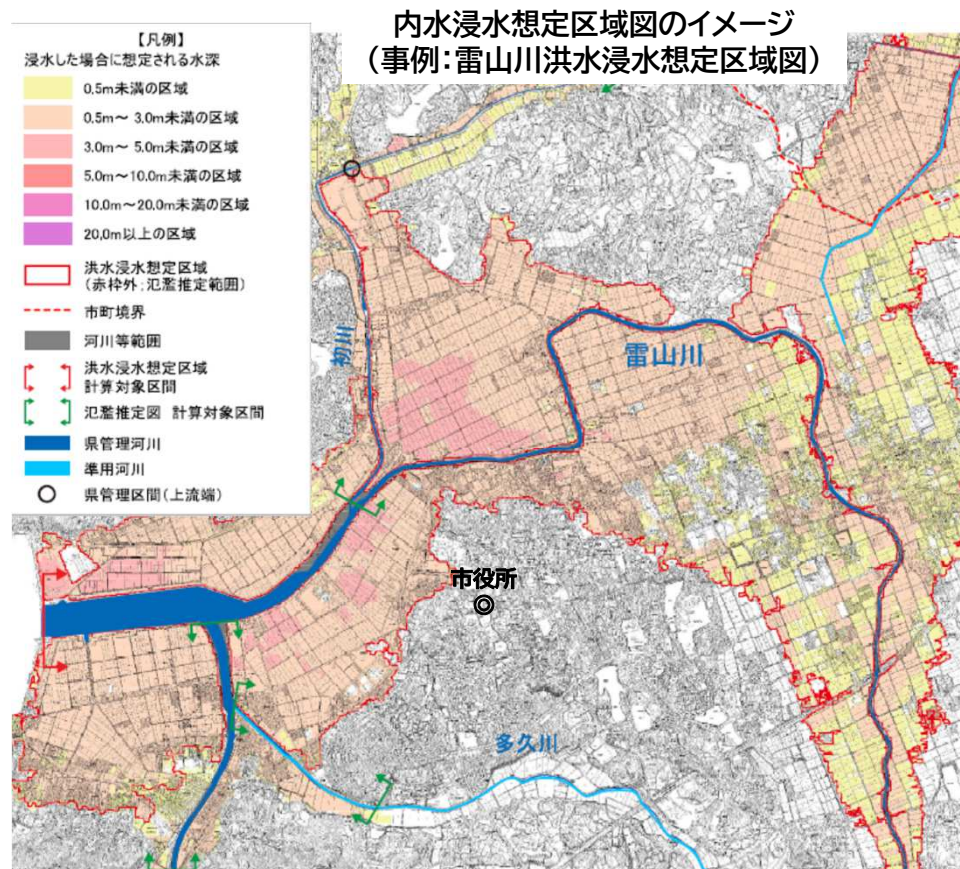
氾濫域

位置図・写真

内水浸水想定区域図の範囲
※雨水計画区域(市街化区域周辺)



取り組み内容の説明



洪水氾濫対策

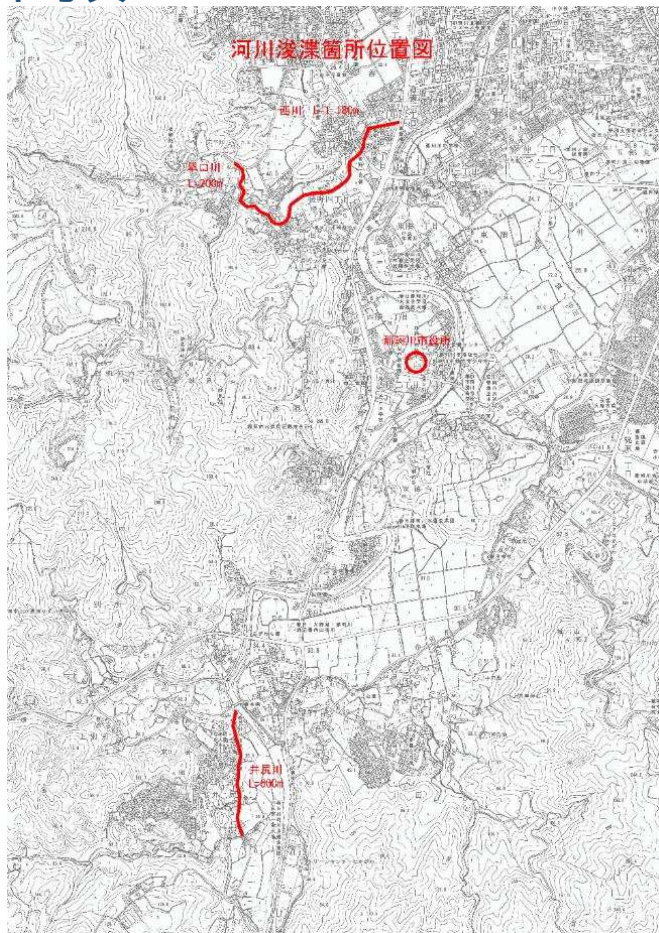
河川の浚渫

(那珂川市の取り組み)

- 豪雨災害により河川が洪水氾濫し、周辺道路及び住宅地が浸水しました。
- 河川内の堆積土砂が著しい箇所において、緊急浚渫推進事業を活用し、堆積土砂の撤去を行い、流下能力の確保を図ります。

河川区域

位置図・写真



取り組み内容の説明



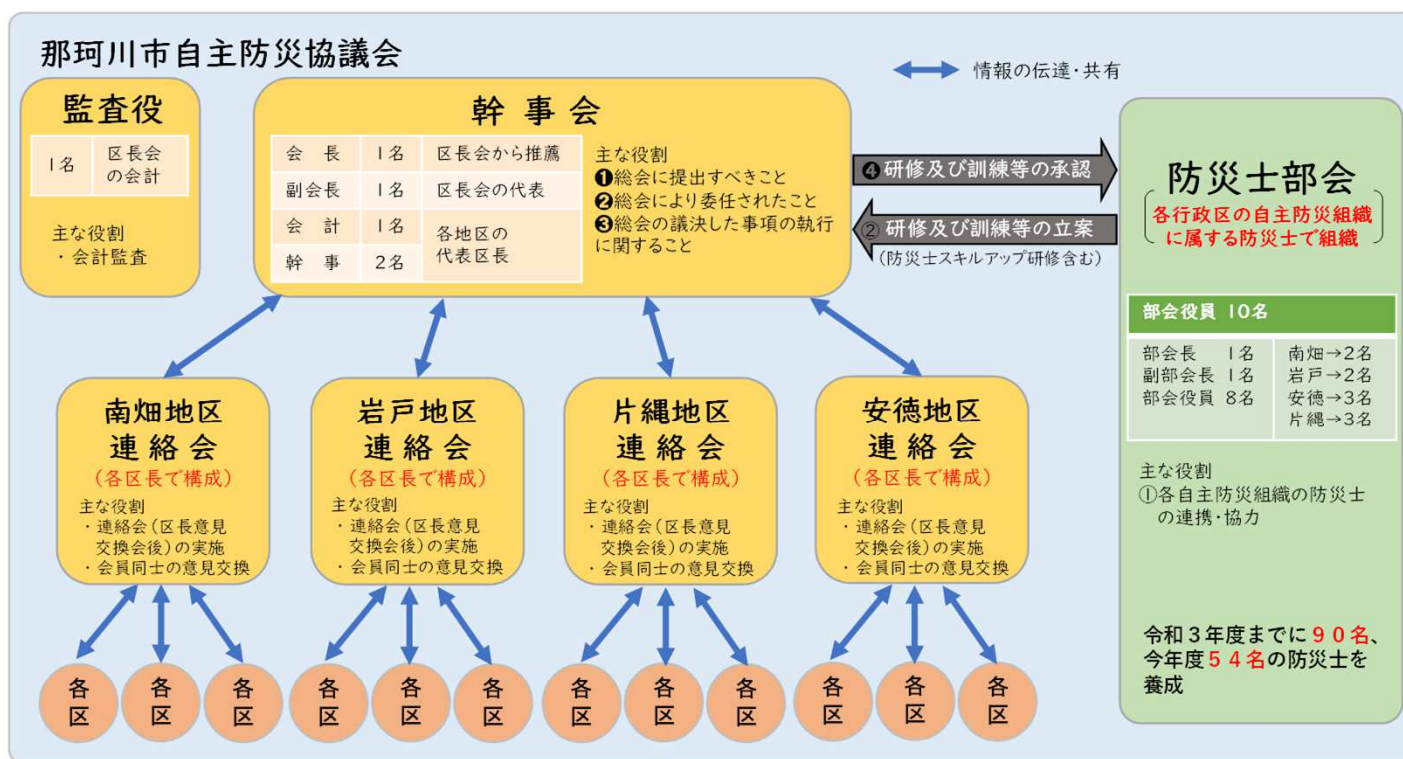
関係機関の連携・協力体制の確保、人材育成

自主防災組織・防災リーダーの育成

(那珂川市の取り組み)

- ▶ 今年度、自主防災協議会の組織改革を実施し、行政区と自主防災組織の一体化を図るとともに、中間組織として地区連絡会を置き、地区内の情報共有ができる体制としています。
- ▶ 自主防災協議会の専門部会として防災士部会を発足し現在活動中の防災士活動の場をより広げるとともに、今年度も市の計画で43名の防災士を養成中です。

那珂川市自主防災協議会組織



那珂川市 (安全安心課)

- 主な役割
- ① 那珂川市自主防災協議会の事務局(各会議等の運営補助等)
 - ② 防災士部会の実施する研修会や訓練の実施支援(防災士スキルアップ研修含む)
 - ③ 防災士養成講座の実施

雨水貯留浸透機能の向上

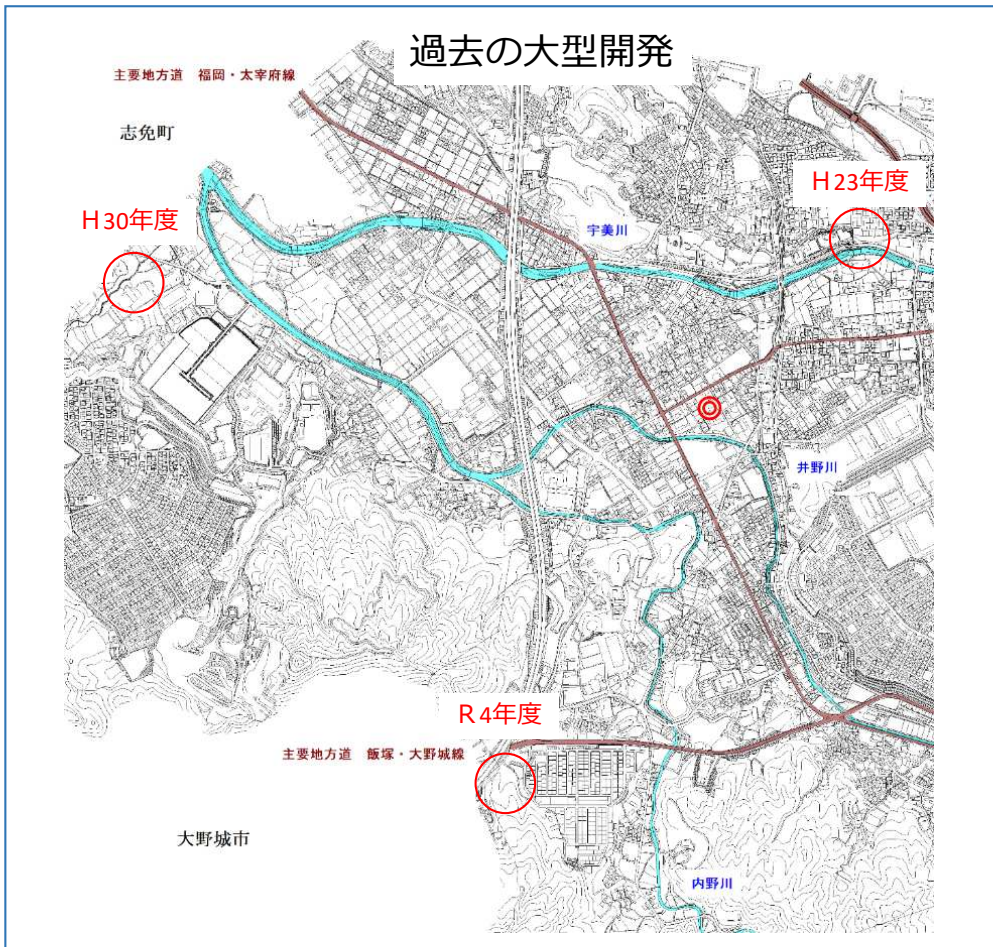
開発に伴う雨水流出抑制に係る規制、指導

(宇美町の取り組み)

➤ 開発申請者に雨水流量計算書を提出させ、雨水流出抑制について検討するように指導しています。

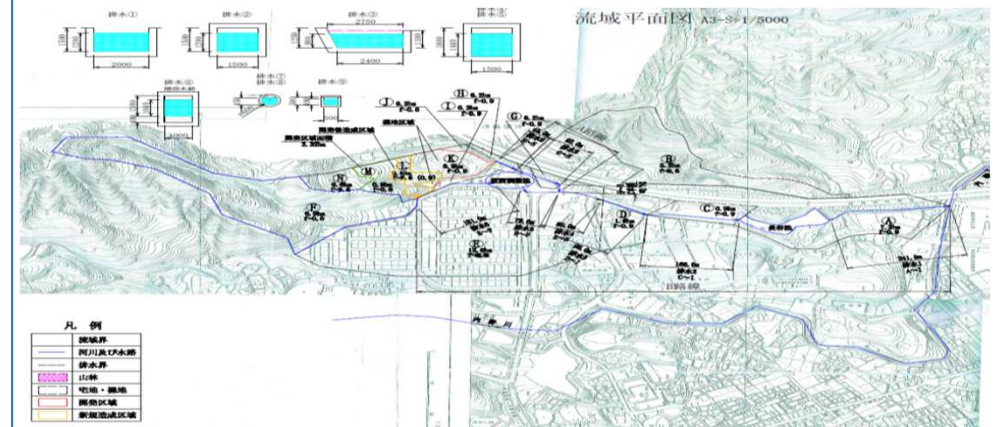
集水域

位置図・写真

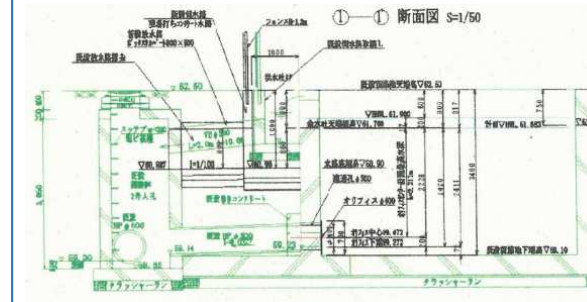


取り組み内容の説明

R4年度大型開発の協議実績 (排水経路及び流下能力)



(調整池仕様)



森林整備・治山対策

治山対策

(篠栗町の取り組み)

➤ 森林整備・治山対策。

河川区域

氾濫域

集水域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明

篠栗町内にある山林を整備し、多々良川の支流河川からの土砂の流入等を防ぎます。

雨水貯留浸透機能の向上

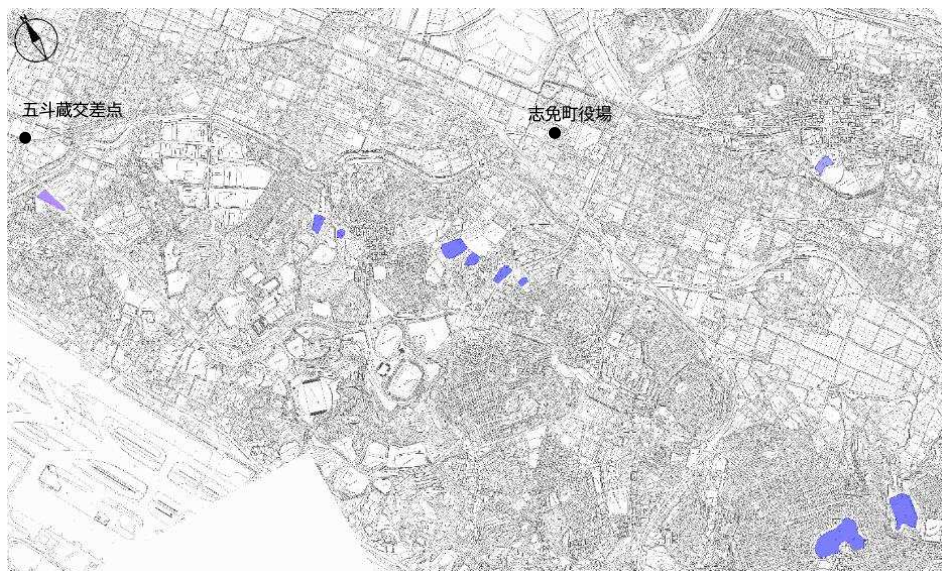
ため池の有効活用

(志免町の取り組み)

- 雨水の調整機能を持たせるため、大雨が予想される場合に池の管理者に連絡し、事前にため池の水位を下げるよう依頼しています。

集水域

■位置図・写真



志免町内農業用ため池 全10か所

■取り組み内容の説明



道路冠水等に影響があるため池に関しては、大雨が予想される場合に、管理者に連絡し、事前にため池の水位を下げて運用している。

雨水貯留浸透機能の向上

雨水流出抑制施設設置の指導

(志免町の取り組み)

➤町内における民間開発に伴う雨水流出抑制施設設置の指導により、開発区域内に駐車場兼用の調整池を設けることができた事例。

※民間施設の為位置等の詳細非公表

集水域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明



写真向かって右側の方が水深が深くなるように設計されており、最大189㎡の雨水貯留が可能

水害リスク情報の共有

各種ハザードマップの作成・公表

(新宮町の取り組み)

▶ 福岡県による県営河川の洪水浸水想定区域の公表を受け、新たにハザードマップを作成し、令和4年8月に全戸配布しています。また、台風や大雨時の時などに、「いつ」「何をするか」を一人ひとりに合わせて、あらかじめ時系列でまとめることができるよう、マイタイムラインを添付しており、それらを用いながら町の防災専門官が地域に赴いて防災講話を実施し、啓発に努めています。

位置図・写真

取り組み内容の説明



新宮町 マイタイムライン(台風・大雨時)

台風や大雨の時に、「いつ」「何をするか」を一人ひとりに合わせて、あらかじめ時系列でまとめることで、いざという時に慌てず行動ができます。ハザードマップを確認しながら、自分の家族や生活環境に合わせてマイタイムラインを作成しましょう。

避難行動計画フロー 各種ハザードマップで自身の危険度を把握し、避難先、避難行動やタイミングをまとめておきましょう。

家族等の連絡先

名前	電話番号	住所	備考

マイタイムラインを作ろう!

作成日: 年 月 日

雨・風の様子

- 台風が発生する。台風の進路予想がある。
- 台風が発生する。雨や風がどんどん強くなる。
- 強い雨が降り、川の水位が上がる。歩きにくいほどの強い雨が降く。
- 非常に強い雨が降り、川の水位が上がるおそれのある状態になる。土砂災害の予兆現象が見られる。
- 川の氾濫が発生。土砂災害が発生。

平常時

- 警戒レベル1 早退注意
- 警戒レベル2 大雨・洪水・高潮注意
- 警戒レベル3 高齢者等 注意
- 警戒レベル4 避難指示
- 警戒レベル5 緊急安全確保

自分や家族の行動計画

参考例
<ul style="list-style-type: none"> 非常持出品・備品の準備をする。 家族の予定や配置ができていないが確認する。 ハザードマップで自宅の危険度を把握する。 家族の避難行動、避難先、避難経路を確認する。
<ul style="list-style-type: none"> 避難先や避難方法を確認する。 家族の予定を確認する。 非常持出品の準備をする。 避難経路の準備をしておく。 風で形が壊れそうな備品類を玄関に入れておく。
<ul style="list-style-type: none"> 避難先や避難方法をインターネットで確認する。 スマートフォンやタブレット/PC/バッテリーを充電する。 事前に決めた避難の準備をする。(着せ、着た判別) 避難の順に避難予定の確認をする。
<ul style="list-style-type: none"> 町外に住んでいる祖父母に逃げなごきょうする。 祖父母に避難できなかったが確認する。 警戒レベル4で避難する場合～ 家族で避難の準備をする。
<ul style="list-style-type: none"> 家族は、備品の入れ替えで避難する。 用くなくなる前に避難を完了する。 避難完了を祖父母・親戚に連絡する。

ここまでに必ず実施!

★もし、避難できていない場合は、緊急的に安全を確保できる場所や避難の2層以上に避難

雨水貯留浸透機能の向上

開発に伴う雨水流出抑制に係る規制、指導

(須恵町の取り組み)

- ▶ 平成26年度より、開発に伴う雨水流出抑制対策に係る指導を実施しています。趣旨としては、近年の集中豪雨に際し、氾濫等の水害を未然に防ぐため、開発後の雨水の流出量が開発前の雨水の流出量以下となるよう、開発区域内において抑制施設を設置して頂き、雨水の流出抑制を図っていきます。

集水域

位置図・写真



取り組み内容の説明

- ▶ 本計画は、田を造成し、倉庫・事務所の建築を目的とした開発行為である。
- ▶ 福岡県の定める都市計画法に基づく開発行為の審査基準の計算式において算出された流量をオンサイト式の貯留施設にて駐車場に貯留(水色箇所)し、調整池最終放流桝に設置したオリフィスを経由し、既存側溝へ放流する。
直接放流(黄色箇所)については、場内舗装による勾配調整を行い、開発地最終放流桝に誘導する。調整池の排水も開発地最終放流管にて排水されるため、開発地

水害リスク情報の共有

各種ハザードマップの作成・公表

(須恵町の取り組み)

- これまでは小規模河川である須恵川には洪水に対する浸水想定区域が無く、住民にハザードエリアを周知できていませんでした。
- 今後は、令和3年度に福岡県より公表された氾濫推定図を、ハザードマップに取り入れ、住民への周知を図っていきます。

氾濫域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明



雨水貯留浸透機能の向上

ため池の補強・有効活用

(久山町の取り組み)

- 多々良川流域河川の『新建川』に放流する池上池(防災重点農業用ため池)の改修工事により、堤体内に刃金土及びブロックマットを張り付け堤体の補強を行いました。これにより大雨時の堤体崩壊リスクを低減し、崩壊により『新建川』に水が流れ込むことによる河川氾濫リスクの低減に繋がりました。
- 今後も必要なため池については補強等を行い、河川氾濫リスクの低減を図ります。

集水域

■位置図・写真

池上池・新建川 位置図



■取り組み内容の説明

池上池 堤体改修写真



内水氾濫対策

排水施設の整備(長寿園地区)

(久山町の取り組み)

➤ 大雨時に浸水したことがある地区の排水路について、浸水を防ぐための整備を行います。

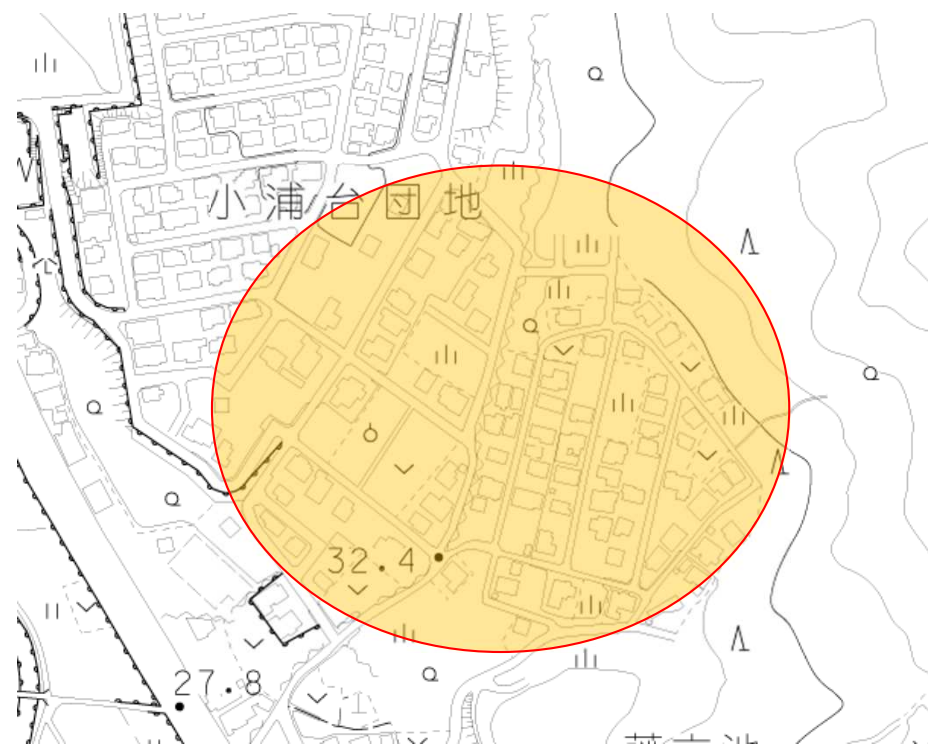
氾濫域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明

長寿園地区の排水路整備を行い浸水を防ぐ



内水氾濫対策

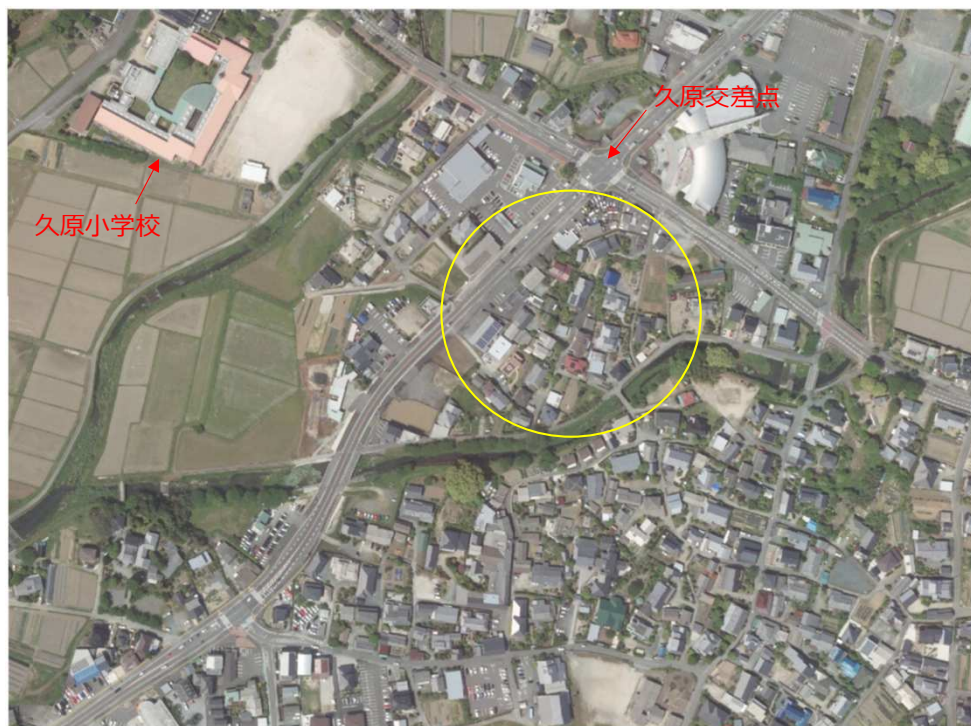
排水施設の整備(鍛冶地区)

(久山町の取り組み)

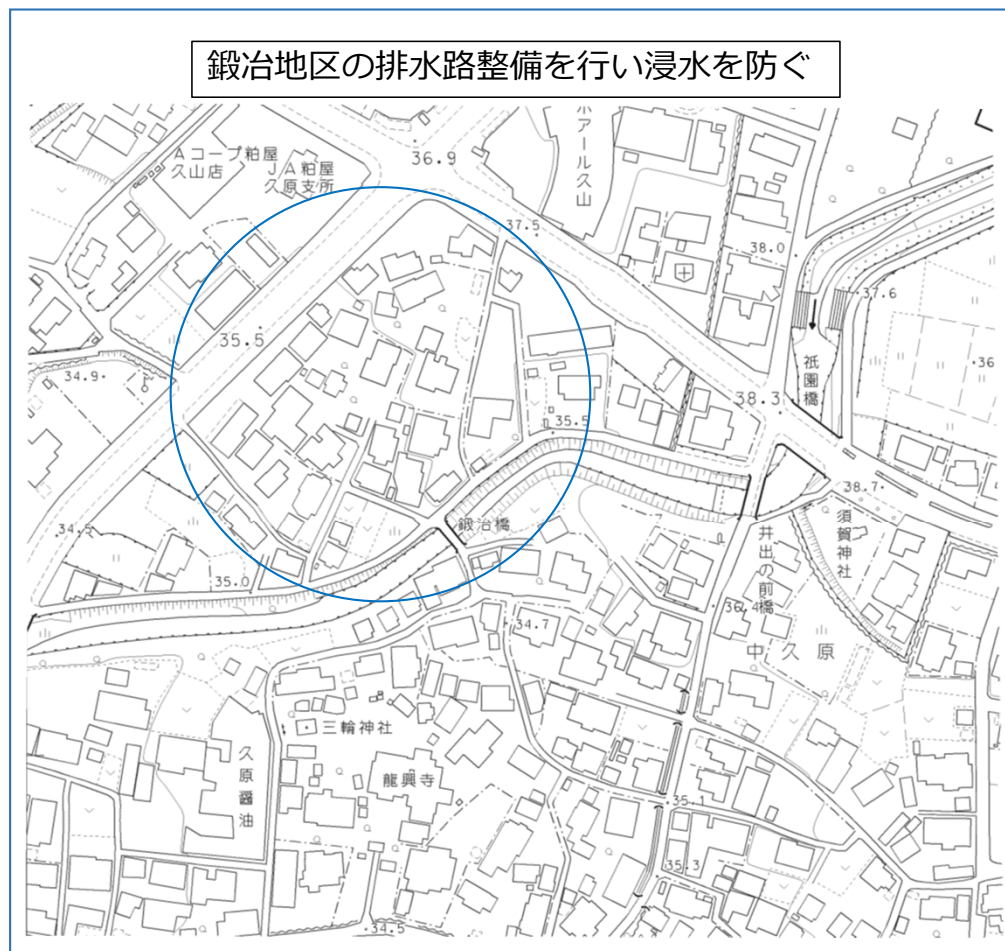
➤ 大雨時に浸水したことがある地区の排水路について、浸水を防ぐための整備を行います。

氾濫域

■位置図・写真



■取り組み内容の説明



住民等への防災情報の周知

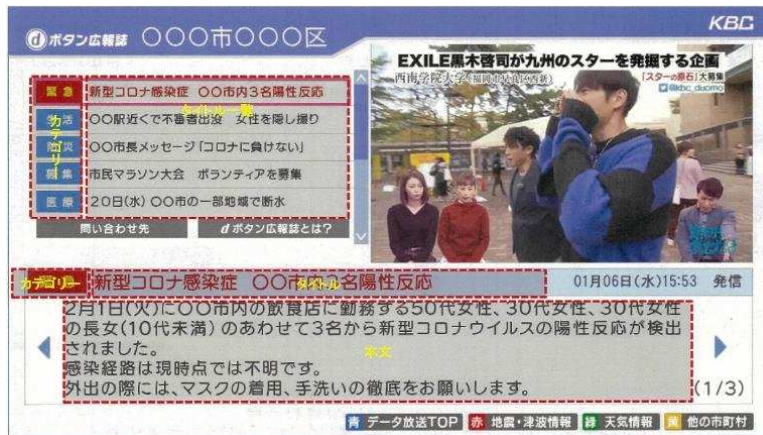
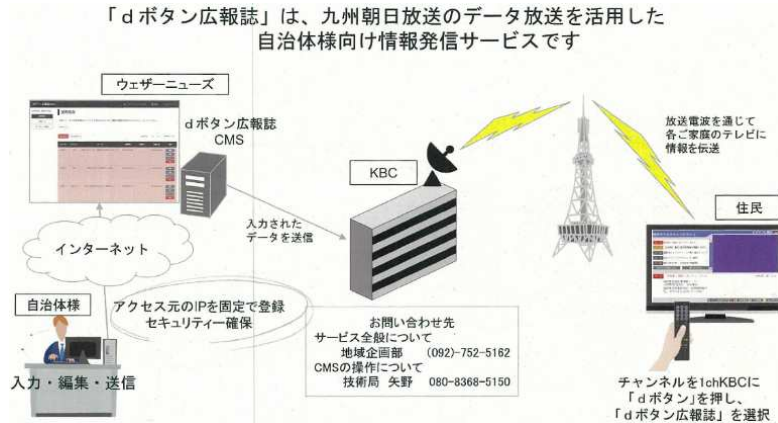
様々な防災情報提供ツールや情報提供媒体を活用した
防災情報伝達の強化・多重化

(粕屋町の取り組み)

- 複雑化、多様化する住民ニーズに応えるため、KBC九州朝日放送が提供するテレビデータ放送及び粕屋町LINE公式アカウントを活用し、防災をはじめとする様々な情報を迅速に発信します。
- 災害時には速やかに緊急情報を発信し住民の避難を促します。

氾濫域

■取り組み内容の説明



はじめました!!

粕屋町 LINE 公式アカウント 友だち募集中

町の情報をLINEで配信

新型コロナウイルス、防災、ごみの収集日、イベント情報など粕屋町のさまざまな情報をお届けします。ぜひ、粕屋町と「友だち」になって、町の情報をチェックしてください。

主な機能

- 欲しい情報を選んで受け取る
- 災害時の避難所を調べる
- 道路や公園の不具合を町に知らせる (7月から試行運用開始)
- ごみの分別を調べる
- ぐらしの情報を調べる

友だち追加の手順

LINEアプリのホーム画面右上にある「友だち追加」を選択

QRコード又は検索
どちらかを選択

QRコード

QRコードを読み取り友だち追加

ID検索

[@kasuya_town]で検索し友だち追加

※ QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

※ [粕屋町LINE公式アカウント]では、個人情報を取り扱っていないため、個人情報が出ることはありません。

町からの緊急情報、防災・気象(警報、注意報)に関する情報、新型コロナウイルス感染症(ワクチン接種)に関する情報などをお届けします。ぜひ、友だち登録をして、メニュー画面の「受信設定」から必要な情報を選んでください。

※ 町からの緊急情報(災害時の避難情報など)は、「友だち登録」をしている全ての人にお送りします。

サンレイクかすや、粕屋フォーラムのLINE公式アカウントでも、施設のさまざまな情報をお届けしています。

サンレイクかすや 粕屋フォーラム

問合せ 粕屋町危機管理課 まちづくり課 ☎ 938-0173

防災意識の啓発

自主防災組織における防災訓練

(粕屋町の取り組み)

▶ 地域で立ち上げた自主防災組織が企画する防災訓練の支援

防災訓練の内容は自主防災組織で企画し、行政側はそれを支援する位置づけ。特に、公助では手の届かない災害対策の向上と組織が長く継続していくため(負担が過大にならない)のサポートに力を入れている。

■ 取り組み内容の説明



震度6弱の地震を想定し、公民館を集合場所とした避難訓練。訓練には非常食の試食や消防団による消火器訓練も実施。

避難訓練と同時に職員による防災講座や保健師による健康相談も実施。

水害リスク情報の共有

各種ハザードマップの作成・公表

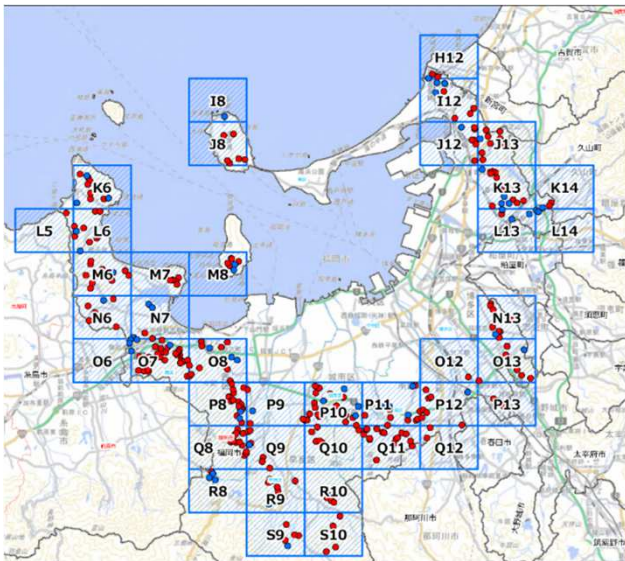
(福岡市、筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、古賀市、糸島市、那珂川市、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町、粕屋町の取り組み)

- ▶ 平成30年7月豪雨を踏まえた農業用ため池に関する「緊急時等の迅速な避難行動」につなげる対策として、「ため池マップ(福岡県作成)」、「ため池浸水想定区域図(福岡県作成)」、「ため池ハザードマップ(各市町村作成予定)」を公表します。
- ▶ 「ため池マップ」…農業用ため池の位置等を記載したものの。
- ▶ 「防災重点農業用ため池」…決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設などが存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池。
- ▶ 「ため池浸水想定区域図」…自然災害等によりため池が決壊し、満水状態の貯水が全て流出した場合に想定される下流域の浸水範囲・浸水深を色分け表示したものの。
- ▶ 「ため池ハザードマップ」…浸水想定区域図をもとに、情報の伝達方法、避難場所等に関する事項について表示したものの。

氾濫域

■取り組み内容の説明

ため池マップ(例:福岡市)



- 防災重点農業用ため池
- その他ため池

ため池浸水想定区域図(例:古賀市)

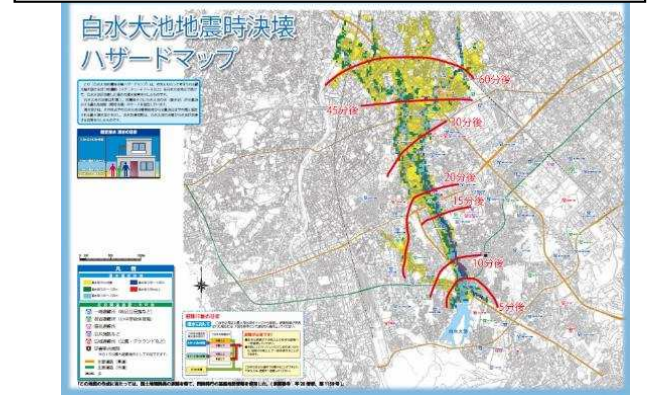


「この地図は、国土院院長の承認を経て、実験条件の電子地形図500を参照したものである。」「(解説書) 令和3年」

ため池ハザードマップ(例:那珂川市)



ため池ハザードマップ(例:春日市)



既存ダムの洪水調節機能の強化

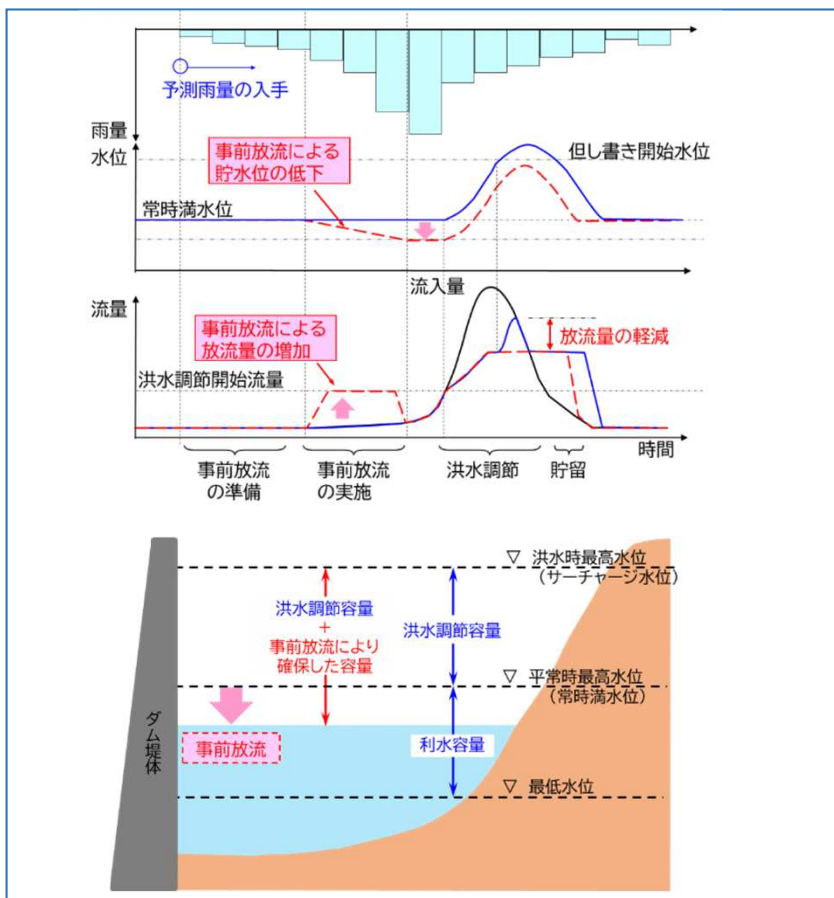
利水ダム等における事前放流の運用

(福岡県・取り組み施設管理者の取り組み)

- 事前放流は、ダム下流河川の沿川における洪水被害の防止・軽減を目的として、既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用できるように、ダムの利水容量の一部を事前に放流し、洪水調節に活用することです。
- 「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針」(令和元年12月)に基づき、福岡・前原・那珂圏域の13ダムでは、治水協定を令和3年1月29日までに締結しました。
- この治水協定の締結により、既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用できるようになりました。

河川区域

■洪水調節容量を持つダムでのイメージ



■取り組み内容の説明

事前放流とは……

ダム上流の予測降雨量が、ダムごとに設定される基準降雨量を上回った場合に、予測されるダムの総流入量に対し、計画の洪水調節容量を超える量を、あらかじめ利水容量から確保するためにダムから放流すること。なお、利水容量から確保する容量は、洪水調節可能容量^{※1}の範囲内で確保する。

^{※1}洪水調節可能容量とは、洪水調節に利用可能な利水容量

対象ダムの洪水調節容量と水害対策に使える容量 ^{※2}

圏域	水系名	ダム名	管理者	有効貯水容量 (千m ³)	洪水調節容量 (千m ³)	水害対策に使える容量(千m ³)
福岡・前原・那珂圏域	かいたのかわ 大根川	こが 古賀ダム	古賀市	920	0	165
		ながたに 長谷ダム	福岡市	4,850	0	369
		いの 猪野ダム	福岡県	4,910	1,260	3,497
	なるとち 鳴瀬ダム	福岡県	4,160	1,860	3,388	
		たたらがわ 多々良川	すえ 須恵ダム	須恵町	80	0
	まつこう 松川ダム	太宰府市	68	0	0	
		きたに 北谷ダム	福岡県	231	53	231
		おおぞの 大佐野ダム	太宰府市	175	0	0
	みかさのかわ 御笠川	うしくび 牛頸ダム	福岡県	2,100	1,100	1,825
		みなみはた 南畑ダム	福岡県	5,560	1,910	3,625
	なかのかわ 那珂川	ごかやま 五ヶ山ダム	福岡県	39,700	8,000	11,718
		せうり 脊振ダム	福岡市	4,390	0	540
	ずいばいのがわ 瑞梅寺川	ずいばい 瑞梅寺ダム	福岡県	2,270	1,050	2,270
圏域計					15,233	27,628

約1.81倍

^{※2}水害対策に使える容量 = 洪水調節容量 + 洪水調節可能容量

内水氾濫対策
雨水貯留浸透機能の向上

農業水利施設の整備・有効活用
ため池の補強・有効活用
水田の貯留機能向上

(福岡県の取り組み)

- 流域治水の取組において、農業の多面的機能の発揮に期待が高まっており、排水機場やため池などの農業水利施設について、施設の更新・改修及び長寿命化を図ることで、湛水被害の防止・軽減に向けた施設の有効活用が出来るよう支援します。
- 田んぼダムについては、多面的機能支払交付金等を活用した地域の取組を支援します。

氾濫域 集水域

位置図・写真

排水機場の整備・有効活用



(排水ポンプの改修事例)



ため池の補強・有効活用

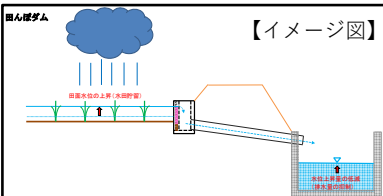


(ため池の改修事例)



水田の貯留機能向上 (田んぼダム)

(田んぼダムの実施事例)



取り組み内容の説明

- 農業水利施設の整備・有効活用
 - ・農業用の用排水路や排水機場・樋門等は、農地だけではなく、農村集落などの湛水の防止・軽減にも活用されています。
 - ・老朽化により、機能が低下した施設については、補助事業を活用し、更新・改修などの対策を実施します。
- ため池の補強・有効活用
 - ・ため池は大雨が予想される際にあらかじめ水位を下げることで、洪水調節機能を発揮することができます。
 - ・老朽化等により決壊の恐れがあるため池について、補助事業を活用し、堤体の補強や洪水吐の改修などを実施します。
- 水田の貯留機能向上
 - ・田んぼダムの取組によって、下流域の湛水被害リスクを低減します。

雨水貯留浸透機能の向上

透水性舗装の実施

(福岡県の取り組み)

- 県内の歩道整備において、目詰まりや雑草が繁殖しやすい箇所等以外は原則、透水性舗装を運用しています。
- 雨水を路面排水ではなく、路盤下へ浸透させ、雨水の流出抑制を図ります。

集水域

■位置図・写真

「県道 福岡日田線(筑紫野市)」

【整備前】



【整備後】



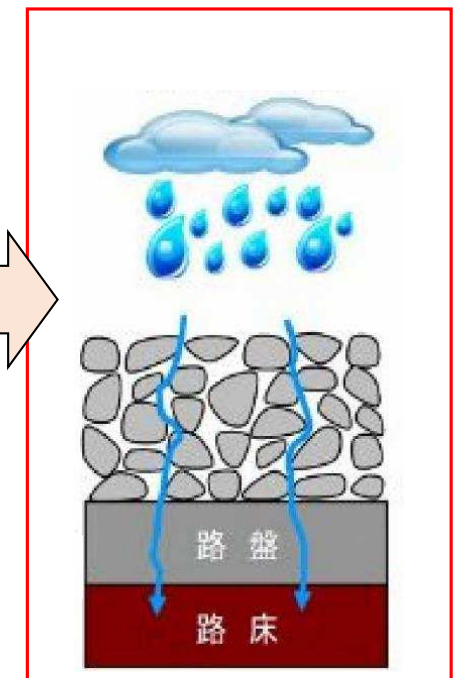
■取り組み内容の説明

透水性舗装のイメージ

【通常（密粒）舗装】



【透水性舗装】



洪水氾濫対策

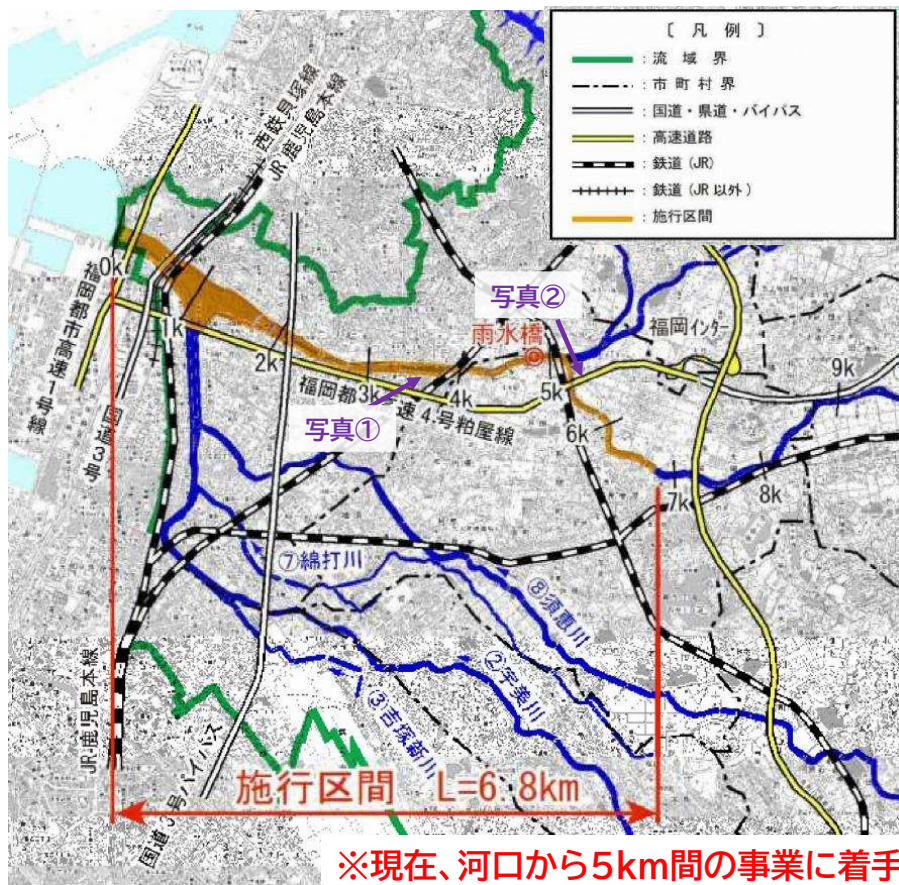
河道掘削・拡幅、護岸整備等(多々良川)

(福岡県の取り組み)

- 築堤や河道の拡幅、掘削、井堰や橋梁の改築によって、整備計画目標流量を目標水位以下で流下できる対策を図ります。また、下流部においては高潮対策による高潮堤防の整備を行います。

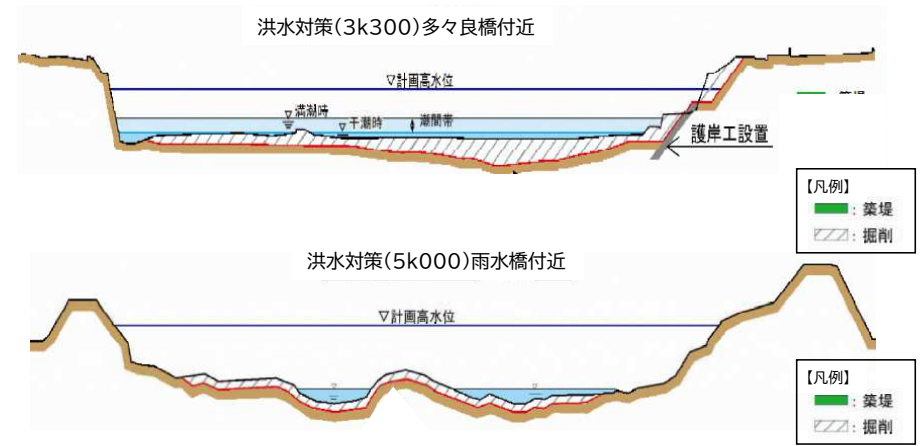
河川区域

位置図・写真



取り組み内容の説明

河川改修のイメージ



現況河道の写真



洪水氾濫対策

河道掘削・拡幅、護岸整備等(瑞梅寺川)

(福岡県の取り組み)

➤ 周船寺川合流点から川原川合流点までの区間について、築堤、河床掘削等の整備を行います。

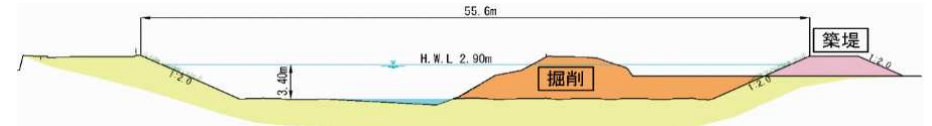
河川区域

位置図・写真



取り組み内容の説明

河川改修のイメージ



現況河道の写真

写真③



写真①

太郎丸橋から下流の状況(改修後)



写真②

柳生井堰より下流の状況(改修後)



写真④

若宮橋より下流の状況(現況河道)



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

福岡・前原・那珂圏域 流域治水プロジェクト【取り組みの紹介】

福岡県

～大陸文化の玄関口として発展してきた地域を水災害から守る圏域が一体となった流域治水の推進～

森林整備、治山対策

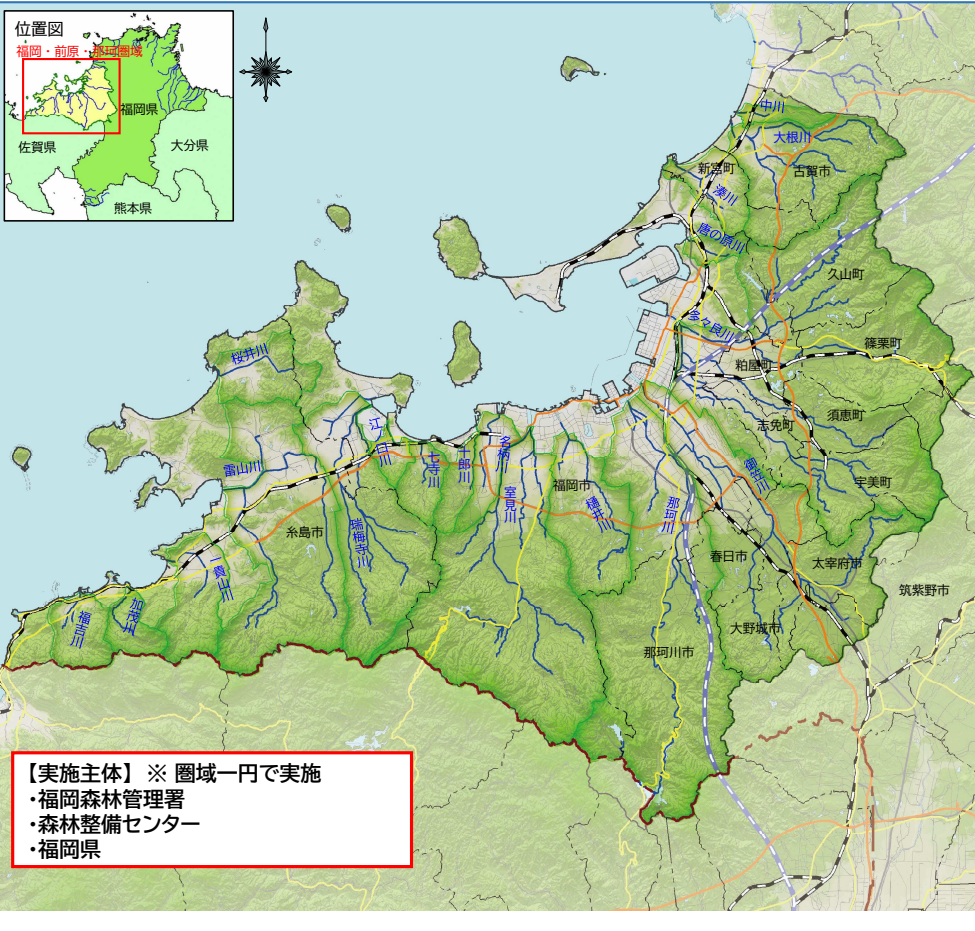
森林整備事業の実施
水源林造成事業の実施
治山施設の整備

(福岡森林管理署、森林整備センター、福岡県の取り組み)
(森林整備センターの取り組み)
(福岡森林管理署、福岡県の取り組み)

➤ 森林は水源涵養機能や山地災害防止機能等の公益的機能を有しており、この機能の適切な発揮に向け、森林整備、治山対策を推進します。

集水域

位置図・写真



取り組み内容の説明

間伐等の森林整備の実施により雨水を地中に素早く浸透させ、ゆっくり流出させるという森林の洪水緩和機能を保全するとともに、治山事業の実施により流木・土砂の流出抑制効果を発揮させることで、流域全体における防災・減災対策に資する。

森林整備による浸透能の向上効果



治山事業の実施による流木・土砂の流出抑制効果



防災意識の啓発

自治体職員向け気象防災ワークショップの実施

(福岡管区気象台の取り組み)

- 市町村の防災担当職員を対象とした県主催の避難情報に関する研修において、気象防災ワークショップを実施しました。
- 実際の大雨事例(令和5年7月)を用いて、気象台から次々に発表される各種の防災気象情報を受けて、防災体制構築や避難所開設、避難情報発令などの防災対応について協議し決定する疑似体験を行っていただきました。
- 令和7年5月に4会場で実施しました。

■取り組み内容の説明

気象防災ワークショップの様子



(左)参加者を2～3班に分けて、防災気象情報など与えられた条件を基に防災対応を協議していただき、気象台職員が適宜助言を行いました。

(右)協議した結果を首長(役の県職員)に進言する疑似体験もしていただきました。

参加自治体 31市町村 (順不同)

【みやこ町役場会場】

田川市 行橋市 添田町 川崎町 苅田町
みやこ町 築上町

【遠賀町役場会場】

直方市 中間市 宗像市 福津市 宮若市 水巻町
遠賀町

【福岡県八女総合庁舎会場】

大牟田市 八女市 筑後市 大川市 みやま市

【福岡県千代合同庁舎会場】

福岡市 筑紫野市 春日市 大野城市 太宰府市
古賀市 糸島市 那珂川市 宇美町 志免町
新宮町 小郡市

住民等への防災情報の周知

様々な防災情報提供ツールや情報提供媒体を活用した防災情報
伝達の強化・多重化(福岡県の取り組み)

▶ 取り組み内容の紹介

福岡県防災ホームページや福岡県防災アプリ・メール等により、防災情報を提供

■ 取り組み内容の説明

福岡県では、気象情報や避難所の開設・混雑情報等を分かりやすく提供し、住民の適切な避難行動につなげるため、福岡県防災ホームページや福岡県防災アプリ・メール等による情報発信を行っています。

(1) 福岡県防災ホームページ

食料品の日常備蓄や非常持ち出し袋の紹介など、防災に関する情報を発信するとともに、災害時には「避難指示」等の状況を地図上で分かりやすくお知らせする他、避難所の混雑状況も配信

(2) 福岡県防災アプリ「ふくおか防災ナビ・まもるくん」

現在地及び登録した県内市区町村の気象情報等を容易に入手できるスマートフォンアプリを開発し、令和4年12月から配信を開始

(3) 防災メール・まもるくん

災害時に気象警報発表状況や避難に関する情報、各市町村の避難所開設状況等を、あらかじめ登録されたメールアドレスに配信



防災意識の啓発

防災教育、出前講座の実施及び水防災学習の支援(福岡県の取り組み)

➤ 取り組み内容の紹介

子どもや高齢者、外国人など、ターゲットを絞った防災意識の向上

■ 取り組み内容の説明

福岡県では、きめ細かく意識啓発を進めるため、子どもや高齢者、外国人など、ターゲットを絞った防災意識の向上を図っています。



(1) 福岡県政出前講座

地域からの求めに応じ、県防災アプリの活用等について、出前講座を実施。

(2) 高齢者向け防災パンフレット

シニア世代の防災の手引きを作成し、老人クラブや公民館等に配布

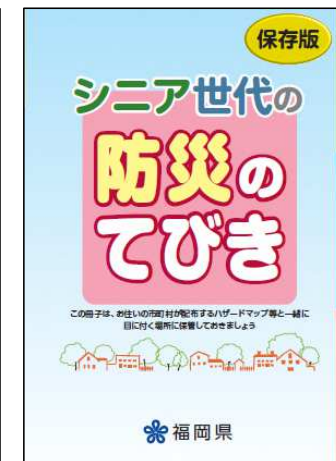
(3) 外国人向け防災ハンドブック・リーフレット

外国人向けの防災ハンドブック等を作成し、県ホームページで公開

(4) 防災教育副読本

小学校の防災教育で使用する防災教育副読本を作成し、県ホームページで公開

※(2)～(4)は福岡県防災ホームページに掲載(ダウンロード可)



リアルタイム防災情報の共有

水位計・量水標・河川監視カメラの設置

(福岡県の取り組み)

- ▶ 福岡県では、危機管理型水位計及び簡易型河川監視カメラの設置を進めています。
- ▶ 河川水位、雨量、河川監視カメラ、ダム情報など避難判断に資するリアルタイム情報をインターネットで配信しています。

氾濫域

■取り組み内容の説明

①「福岡県総合防災情報」にアクセス

福岡県総合防災情報 検索

<http://doboku-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/gis/info/top/menu>

QRコード



②トップページの河川情報－水位情報の「詳細表示」をクリック



クリック

③メニューから危機管理型水位計をクリック
→危機管理型水位計一覧表から水位計を選択

メニュー	危機管理型水位計一覧表			
河川情報	=< 前頁 [1/8] 次頁 > 市町村選択: 全県			
雨量情報	河川名	局名	市町村名	現在水位 (堤防の高さまで)
水位情報	築地川	中島橋	小都市	あと123cm
水位現況表	吉原川	遠賀郡遠賀町	あと64cm	
降雨中最高水位表	名栗川	水丸橋	あと194cm	
ダム情報	御蔵川	山原橋	田川郡香春町	あと162cm
基準値超過情報	養徳田川	長瀬橋	朝倉郡筑前町	あと86cm
河川カメラ情報	戸切川	古川橋	遠賀郡遠賀町	あと42cm
洪水予報	山の井川	城島大橋	久留米市	あと345cm
避難判断水位到達情報	須磨川	飯橋	糟屋郡粕屋町	あと238cm
河川カメラ情報	安宅川	馬場橋	田川郡川崎町	あと198cm
ダム異常洪水時防災操作等情報	長城川	小れあい橋	八女郡広川町	あと141cm

③メニューから河川カメラ情報をクリック
→表示エリアから市町村を選択
→表示したい画像上でカメラ画像表示を選択

タイムラインの作成、ホットラインの構築

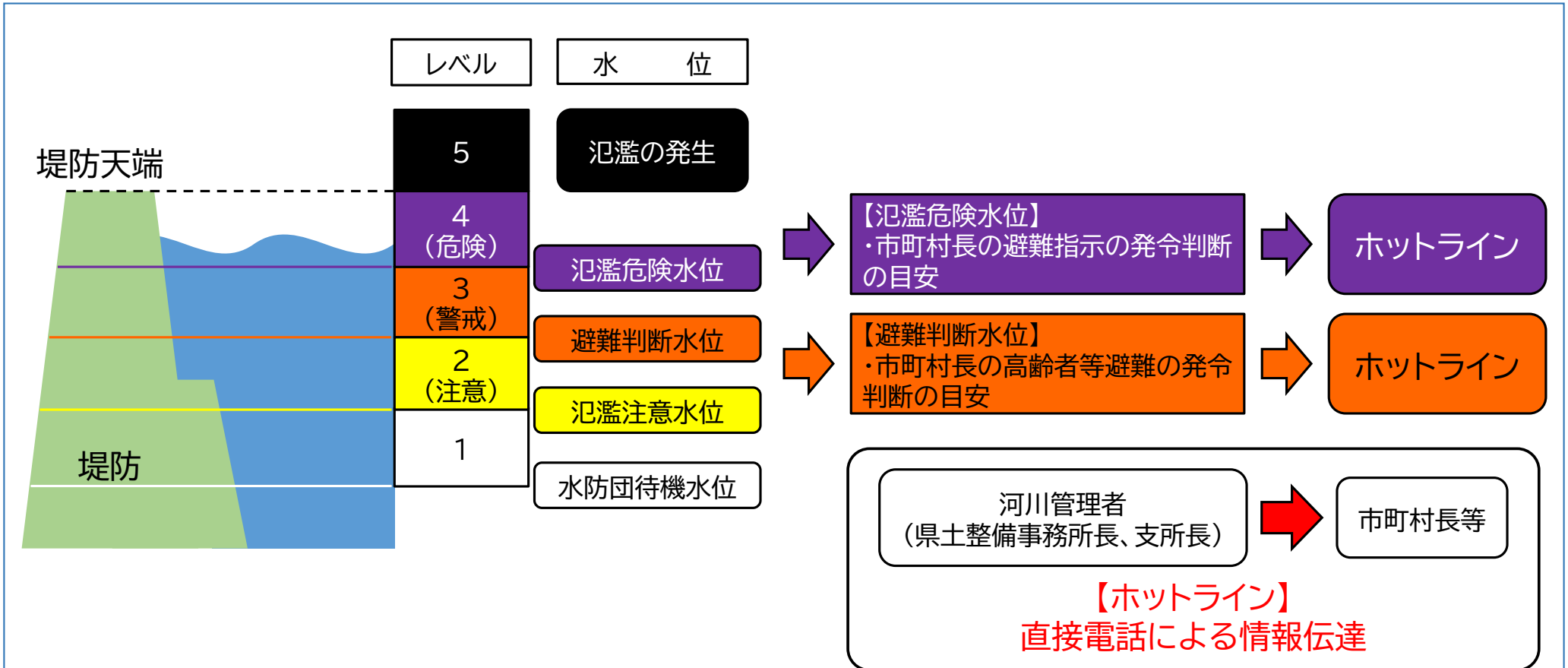
関係機関のホットラインの構築

(福岡県の取り組み)

- 河川管理者から直接、避難判断水位と氾濫危険水位に到達するタイミングで、市町村長などに対し確実に情報伝達を行うことにより、市町村長が行う避難指示等の発令にかかる判断を支援することを目的としています。
- 県が管理する水位周知河川においては、平成30年5月に市町村とのホットラインを構築し、運用しています。

氾濫域

■取り組み内容の説明



水害リスク情報の共有

各種浸水想定区域図(または過去の浸水実績範囲)の作成・公表

(福岡県の取り組み)

- ▶ 小規模河川の水害リスク情報として、洪水浸水想定区域図を作成・公表を順次進めています。
- ▶ 県管理の洪水予報河川と水位周知河川に指定された41河川及び小規模河川292河川の洪水浸水想定区域図は、県のホームページで公開しています。(R6年6月時点)
- ▶ 高潮浸水想定区域図は、玄界灘沿岸、豊前豊後沿岸、有明海沿岸について、県のホームページで公開しています。(R元年12月時点)
- ▶ また、浸水範囲や任意箇所の浸水深を福岡県総合防災情報の地図情報から確認することができます。

氾濫域

■取り組み内容の説明

①「福岡県総合防災情報」にアクセス

福岡県総合防災情報

<http://doboku-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/gis/info/top/menu>



QRコード

②トップページの地図情報(GIS)をクリック



③メニューから表示情報をクリック

→表示情報一覧から浸水想定区域にチェック



④地図上の任意の指定地点をクリック

→指定地点の浸水深が表示できます。



被害の軽減

個別避難計画作成促進事業

(福岡県の取り組み)

- 個別避難計画の作成率が低い市町村の計画作成への理解向上及び避難支援者の確保等に取り組み、全市町村の個別避難計画作成率が100%に近づくよう支援する。

■取り組み内容の説明

県職員及び専門家の派遣等を行い、市町村の計画作成への取組を支援する。

[支援例]

① 避難支援者の確保の支援

市町村職員、福祉専門職(介護支援専門員、相談支援専門員等)、地域住民(民生委員、自主防災組織、消防団、自治会等)を対象として、個別避難計画作成のための基本的な知識の習得や、福祉専門職・地域住民が参画することの重要性等についての研修を通じ、避難支援者の候補者を確保。

② 協議会等の設置の支援

市町村防災部局と福祉部局、福祉専門職、地域住民間による連携体制を構築し、計画手順書の作成に向け協議する場を設置。

③ 計画手順書の作成の支援

協議会等において作成。(計画手順書のひな形は県が作成。)

④ 個別避難計画の作成の支援

協議会等の関係者が、避難行動要支援者ごとの計画を作成。

⑤ 個別避難計画の検証の支援

計画の実効性を確保するため、避難訓練を実施し、検証。